言海原稿

第二号

洋学文庫
文庫8
A 149
8

あ

言海原稿　第貳号

大正九年一月八日綴

大槻文庫

97
118
199
(8)

〔朱ノ傍ノ見ヨ〕

あさ、あけ　朝ノ朝　あさ、あけ　朝焼ニ同じかさみノ條ノ見ヨ

あさ、ごろも　麻衣　麻布ニテ作ル衣、特ニ喪服トスルニモ用フ　又　喪服ノ見合ハセヨ

栄ノ衣ナリ　一万九ノ三十四　夏　河ノ手児女ガ麻衣ニ清袴ヲ　アサノキヌ

一万七　今年行ク新島守カ麻衣肩ノ紐誰カ取リ見ム

喪服ナルハ

高市皇子殯宮ノ歌　御殯ノ人モ自榊ノ麻衣着テ　（古ヘ喪ニ

佐紀王ノ歌　喪服　天武紀ノ歌　喪服

万十三ノ三十八　高市皇子　蒙ノ榊ノ枝　（白麻布ナリキ）

着ル　夢カモ　現カモト　白榊ノ目ニ　枕歌　ヒサヒサニ　人ノ特ノ麻衣

あさきぬ　麻衣　あさごろも　麻衣ノ條見ヨ

あさがほ　安達山　ちたはら　條見ヨ

あさ、ぢさ　浅草　マハラニ生ヒ先草ニ色カ浅茅ニ同じカルベシ　（茅花　ツバナ　十三ノ長ノ夕医）

夫木　三十八　雑　古川ノ岸ノアタリノあさぢさ

あ、な　麻績(三)麻絲三(ミ)　カ九ノ三十二「ト垣内ノ麻ノ矢引ナ千ト」

カ十四ノ十三「女左キラ麻筍ニ麻筍ニ麻績ニ」

(三)草ノ麻　宮田年ト　ナード

あさり　浅蜊取(浦取ノ意カ)　福中ノ遺蹟ヲ取ル者

あ、さんわ　亜酸化　一　砒素　六三素

あさんづ　浅水(地名浅水ノ意)　「延利井出郎朝津阿左布」

七ノ七

借馬年ノ曲ノ名　ヤバラ　ヨリ　夏ゼミ入

アブラ　ヨリ　ヒ

1000ノ橋ノトドロトドロト流リシ所ニ

あさくら　朝倉　沖平節曲名、「朝倉ノ木丸殿木ノ下ニ」(きのまろとの)　安左年川

あさら中　浅蜜(浅黄ノ蜜)　駑主ヨ位前紀ノ稲之穂於儀蜜「醸酒」

度深カラズ　親。

外ノ事中ニ一フルタトアルカラバ入ル

あしたのところ　朝所（まきまりざとう御座ヲ見ヨ）

音使ニあいたとゝ云、あいなんとゝ云、太政官廳中ノ官位名

中務内侍日記、弘安十年二月十五「官ノ廳ノ北向ヨリ参リテ」

あしたの所ノ南向ニ朝餉ヲ

御昇位行幸ノ儀式云ニ

（白土壁サヾラヘハ云々主上大床ニヨリタマヒテ、内侍、

朝所ノ北ニ出テ、サヾラヘ云々御膳ナドマイラス」宇多抄「朝所、アイタドコロ官廳」

枕草子、八、云もとゝきゝの「故殿の云ニ官ノつかさのあいなんとゝ云

（かなぐ　ぐ　ぎ）

マタニヲタマヘリ云ニ何事ヲバ申ニ行ヒ給ヒ

ヨリカルタ　格子ナドモナク只廻リヲ御簾ガリ

公宴式「參議以上著朝食所云ニ廚家備酒饌」

北山抄七「列見定考、朝所、并、穩座、左大臣、

西宮記、二月「仁和四年二月廿日、列見、云々、了、大臣已下就二朝所一」（註、所座ニ）

謂、史食所、皇子紀、ハ「元仁元年閏十月九日、於二官廳朝所一」

奉同二北子南像一」

あたらし　形シ　新（八平安朝ニ於テあらたしノ轉倒ナリトスル説ニ可惜ニ

奥フコリ、愛惜ノ意ニ移リ、新ナリト転メテ清トナルニテ、うるはし（可愛）ノ

うるはし（美麗）ニ移リ、うつくしむ（愛）ノうつくし（美）ニ移リ、名ガ如キカ

（十七）アラタメ、アラタナリ、古カラズ、新ニ改ムルナリ

拾遺、十四、恋、四「あたらしト何ニ命ヲ思ヒケム恋レバ古クナリメ（キ身ヲ）」（可惜ノ

惜レニカ）

（アザラケシ）

（三）イキイキトシタリ、月日ヲ経テ、肉、野菜ナドニフ　新鮮

一　太政官

二　西宮記

三　枕草子

四　平家

五　日本書紀

アリガナ　ヒズル

あしたづ　朝所（朝所、あさまうしどころ）

（ノ語原ノ基）

三省堂ニ、あしたづ、あさまうしどころ、ノ説アリ

イタドコロ　官廳　△

（中務内侍日記「あしたづ」（玉ノ緒九）

平家、一ノ巻「太政官ノ外記ノ廳。字北方ノ朝所ア

旧今昔二十七ノ九語「官ノ司ニ朝廳ト云フ所ニ行ヒケリシニ未ダ暁ニシテ火

ヲ燈シテ人ハ参リゐル」（宴ニ参ル）（中ニ記ニ中ニ附中ニ）

△枕草子、「藤ノ御曹司ニ方違レテ官ノツカサノあたん所ニ渡ラム」

あたん　朝所　あたんどころ　朝所　あたんどころノ基

下女日記

[illegible]

中結内侍日記 弘安元年 三月十五日 「宮殿ノ北面ヨリ参リテ髪アゲモタ・メテ
あした 所々南面ニ白砂ヲ敷ツラネバ 「冊」さらく 行幸近シカセオハしまさ」

出家

出家ニ長渚時

あしいきたひもの 凶業物 よし(はら)の見ヨ

あしはら 聽枝 よしはら ヨ見ヨ

あじまち 阿宝丸 (後ニ彼ノ名ナドヲ同ジカラ) 其名ヲ言ハズシテ小児ナド指シテ

今昔三十カ十二話「上ニ仕ヒケル女ノ三ハク書見侍ヒシ阿宝丸ヲ市聖ヲ
ヲ聞キテ似ノ取出テ食ヒツレ」

あしいぶね 葦船 三 神代ニ蛭児ヲ載セテ流サレキシ天ノ磐船 詳ナラズ
神代上ノ六、諸説ニ尊「遂ニ夫婦先生蛭児後載葦船」
(三 [illegible]ノ小舟) 忠見集「難波潟 而流之」 行キカヲ舟ノ綱手縄クルヲ見ニ不葦ノ間ヲ無三」

あしかりをぶね 葦刈小舟 水中ニ生ヒタル葦ヲ刈取ル舟 アシフネ
後撰 十八、四「玉江潜ク葦メリ小舟、サシワケテ誰ヲ誰トカ思ヒ定メム」 我ハ
ヲ三十の四 [illegible]ノ葦刈ニ堀江漕ぐナル 梶ノ音ハ」

夫木、三十三、舟「油江ニサシテモ知ラズ難波潟ノあしのをぶねニ月ヲ見ルカナ」

あじゃう 阿嬢 字鏡十「阿嬢波々」和名抄三ノ十六「門嬢波々」(阿ハ耶ヲ省) 母ニ同ジ

あしいがた　足型

足袋ヲ作ルニ用ヰル足ノ形ヲ木ニテ作ル

あしいがた　足洗

酔客ニ長ヒたるコト

（三）足ヲ洗フ水ニテ洗ッ

（新聞社員ナドニ云フ）

（銭ヲ仲間ニ出レテ良

（八群）

あしいぬぎ　片足脱ギノ男

童男女ノ戯ニ、片足ニテ蹴ヒ上ゲテ、東京ニテ云ヒ出シ

（雪足片方ヨリ）

（八ツリ）

（三）

あし・ぶぎ　〔片足潜キノ男〕　一重男女ノ霧、片足ニテ歩ヒ、東京ニ元元ガ

古クハあしりぶぎ　ビビキ　走ト注意ヲ後ニ先ニ

寛永度ノ歌「カタカキテ降ル夕立ヤ　すましぶぎ」油粕（寛永）「上ニカタカタ、下ニ

カタカタ」前ヲ「モシデ草ヲ踊マシト人ノあしりぶぎ」（片足・上・片足・下）

落語ニあしたんぶぎ　越後ニあしやえん（すぎぶぎ）常陸ニちばえん（跛

ぶぎ）　京坂中国ニけんけん（ぶぎ）　相模ニひたけん（跛ぶぎ）　伊豆ニひたけん

あしらん　亜字棚　棚キノ亜ノ字ノ形ニ組ミ作ル名キノ

あじろぎ　網代木　魚ヲ捕ルニ作ル物、冬、川瀬ニ杭ヲ亜ノ字ノ形ニ立テ簀ヲ張リ

網ノ代ノ木ノ義　壁代　垣代ノ例　さけあじろ　見合ハス（山

冬ノ川　川漁ニ魚ヲ捕ルニ作ルモノ　流ノ中ニ上流ヲ広ク下流ヲ狭ク杭ヲ

立テ網ヲ張リ水流シ来ル魚ヲトラヘテ渦

中ニ入ル　網代笠ヲ　網代ノ底ニ水ニ清ル　網代笠ヲ

魚、寒ニテ殘ル夜ヲ寒ク　網代ノ者ハ居ナカラニ

賀、宇治川ノ流ニ近ク山城ノ宇治　宇治川

東ヲ山　其人ヲ網代人ト云フ　網代笠

瀬　奥給　網代笠

万三千八、「モノ、フ八、八十氏河ノ阿弟ニイセヨリ波ノ行方知ラズ」同ヒノ十「宇治川

流瀬無カラシ阿自呂人舟喰フ春ヲ」ヲチコチ風ニ」内膳式「少嬢ニ江国、

氷魚網代、名所、其氷魚始九月」　「月ニ寄リテ五六日ノ程ニ宇治マデタマヲあじろヲスルコノコロハ御覧ゼメトム」

空穂吹上　「流レ来ルひを数ブビあじろ木ニ取ル数キ知ラズ」

上ノ二十三

12.3

あし・ぶぎ　足洗　酔ヒ足ニ成ルコト　（三）足ヲ洗フ意ニ用ヒ

（十）　娼妓藝者ナド其業ヲ止メ素人トナル意ニ用ヒ

「神垣ニ仕ヘ」　神事ニ徒歩ニテ出路ニ出デ長ク帰リ来ル

「神垣ニ仕ヘ」　神事ニ徒歩ニテ出路ニ出デ長ク帰リ来ル

「神垣ニ仕ヘ」　神事ニ徒歩ニテ出路ニ出デ長ク帰リ来ル

（新聞社員ナド三五）　（銭ヲ仲間ニ

神事毎朝徒歩ニテ出路ニ出デ長ク帰リ来ル

土足ヲ洗ヒテ得セシニ　托鉢ニ出デ長ク帰リ来ル

あせ（名）「吾兄」（兄ノ條ヲ見ヨ）（男子ヲ親シミテ呼ブ語）

古事記中巻ノ五十四倭建命ノ御歌「尾津ノ崎（伊勢）ナル一ツ松阿勢ヲ」（吾兄ヲ）雄略紀五年育「榛ガ枝阿世ヲ」前ナル御佩刀ノ樹下ニヲリシヲ賞デ（見ニテ）ヒテ後ナルガ舍人ガ榛ニ上リテ難ヲ免レシ歌、共ニ樹ヲ擬人ニテナリ

あさぶすべ　自上ニ浅川水ナド浅クナル、アスル、ソコル、カ

万葉ノ三十四「須賀史ニ行キテ見テシカ神名備ノ淵ハ清ミ而潔ミカナルラム」

あせも　痱（汗ノ出ル物ノ異、腫物デキ物ノ如ク出ル）

又、アセボ　暑時、汗ノ多ク出ル時ノ疹、腋窩、股ドニ小ク水疱ヲ生ジ痒ク、阿世毛ノ如キ物ヲ作ル所ノ病モドコロ）　天花粉ナドツク。

和名抄三ノ十四「熱沸瘡痱、阿世毛」

あせば　あせも（痱）ノ轉。

あしぶえ　蘆笛　胡人ノ葉ヲ巻キテ吹キ鳴ラスモノ、コトヲ竹葉笛ノ異名ノ如ク云フ、蘆笛ヲ結ケ坎上奥器ニ下世葉器ニ野門「葉笛、胡人吹ク葉笛ノ如ク、陽ノ調ヘ」笛、笛ニ竹ノ（一馬本）

あたらめ（あたらしき）ノ轉　鳴ノ同ジ

あたらし　（あたら）（ナ）ノ轉　擂　擂芋ニ同ジ

あたらばち　（あたら）（ナ）ノ轉　研鉢ニ同ジ

あたらし　擂鉢ニ同ジ

あたらき　擂木ニ同ジ

あたりきやうげん　岩柱言　脇色ノ面白キ柱言、客人多キニ云フ語

あたりしたがて　自ヲ　苦歎　怒リヲウツス、ヤツアタリヲス、

あたらしき　年　收穫ノ豊熟ヲ祈ル　豊年

[illegible]

あしぶき　葦茅　屋根ヲ葦ニテ葺キタルモノ、後拾遺、冬「訪フ人モ無キあしぶき我ガ庵ニ降ル雪ハサヘ音ヲセリケリ」

あしいま　葦穂　葦ノ穂、葦ノ花、同上

あしいからめ　線虫　はりがねむし　アシマキ、アシマツヒ、「あしまろひ」ヲ見ヨ

字錢六十八「蟬蜻、蜣蜋之子、阿志乃良女、於伊地不久利」

蜣蜋ハ糞虫ノ蟲、蟷螂ノ誤、蟷螂ハ蟷螂ノ國ヨリ名ヲ、即チ蟷螂ノ子、あしがらめ、蟷螂ノ腹中ニ寄生シテ後ニ水中ニ棲ム

あしがき　足繩　(二)あしてせ　同上　絆トナルコト

太平記ノ「取繩ノ事」マシリテ軍ヲセバ、ナマジヒニ、敵ニ侮ラレニナリテ」

(三)虫ノ名、はりがねむし　同上　アシカラメ、マシマツヒ、アシマキ此虫ハ水中ニ棲ム　水ヲ

洗ルヽ足ニカラルヽヨリノ名ナルベシ　(あしがらめノ條ヲ見ヨ)

字錢六十九「蟬」「足古豆比」字形「蟬、アシマトヒ」

(車虫ノ合字ニ)

持明院殿　わが年六歳　雅

あしづから（副）（足之從義）已カ足ヲハコビテ、用ヲ

度宗法、一、北ノ方、度宗法ノ君ノ「御殿」ノ御前ニ引出デ手デ云々あしづから

行ナスバ、まを（来）マジカリケム」

あしふえ　蘆笛（竹蘆舌ヲ用ヰタルノ名リ）篳篥ノ異名

下巻五葉

アシエラ　阿修羅（梵語生霊、神霊ニ義ナルガ悪神ノ意トナルモノナリ、

悪ロ阿ヲ非トシ修羅ヲ天トシテ非天ト訳スルモト仰度ノ通説ナリト云（高楠

順次郎氏ノ説）非天（其巣報）諸天ニ隣次シテ天ニ隣ル意ト云）佛説ニ六道

ノ一、阿修羅道ト云ヒ器ノ如ク修羅道、又あそ山、そらト

云フ其人タ常ニ精足ノ心ヲ懐キ戦闘ヲ好ム、阿修羅王ハ力強ク

能ク梵天帝釋ト権ヲ争ヒテ闘フ云

笠穂、後篇ノ「あさら萬劫ノ深」……足ノ　そらノ例

あしで　葦手　あしでがき　葦書

あしわけ　葦別　あしわけをぶねノ條ヲ見ヨ

あしだて　足立　足ヲ跨ガシテ、行ク　字和抄「跋、アシタテ、俗云跋歩」

あしゐ草　葦草（葦蘆ノ異名ニ似テ違ハレル、「葦草、

陣手ヲ阿居トアリ云ヘリ」草ノ名、又、カキナ、カイナ、会、かりやす、東京ニテモ云

しるし云フ

本草和名、上ノ四十五、「葦蓋草、阿之ヰ」（和名抄同ジ）醫心方（永観）一ノ五十六、「蓋

あしゐを　足緒（二）特産（足ニ繋ク紐、後ニ（女ト云フ

草、加岐奈、阿之乃阿

為）

字鏡、十六、「脚、太加乃足乎」和名抄十五ノ二、産大夫「蹉乎、阿之乎」

仁徳紀ニ「産五、イ、ヒ、ヒ」葦編、著其足

（三）太刀ノ革取ノ緒　足金ノ條ヲ見ヨ

ヤヤガキ　草屋金ノ末ニ　三膝庵談話

三豊太閤ノ時摂津ノ草屋ニ唐人ノ居テ銭名モノレス　異傳ナリ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あじろ　網代　あじろぎノ異音ニ作リ網ヲ張ル

あじろびと　網代人　あじろぎヲ張ル

あじろ　竹篠ハ[illegible]　[illegible]　編ノ屋　其條ヲ見ヨ

[illegible]　竹ニ借字ニ網代ト書ク　竹葦ナト篠ノ細ク割リ縦横ニ編ミ組ミ[illegible]

垣　天井トシ笠ニ作リ　牛車　輿ノ屋形ニ貼ナド種々ニ用ヰル

扇　[illegible]　悦　團扇

[illegible]　檜ノ

あじろがさ　網代笠　竹篠ニテ作ル笠　傾ハ山形ナレテ縁少シ上ル　表ニ渋ヲ塗ル　多クハ僧ノ用ヰル

あじろばり　網代張　網代笠ノ一種　傾ノ形　杉形ニテ縁強ク上ル　表ニ大概赤漆ヲ塗リ武士ノ馬上用ヰキ

あじろうち　網代団扇　竹篠ニテ作リタル扇　面共ニ渋ヲ塗ル　（紀州府志）

あしながぢち　足長持　足打ノ長持　道路ニ置ク時ノ用ヰル

あじろぐるま 網代車 牛車ノ一種 裳時 檳榔毛ノ屋形ニ簾ヲ垂レ、五位以上ノ

乗用トス 裳時ノ車ノ

直衣ノ時用ヒ物見遊行ニ用ヒラル

（裳時ノ乗用ハ主ニ貴族ノ婦人ガ用ヒラル）

異ナリ あじろバシ走ラセル。

枕草子ニ「あじろ車ニ牛かけて、人のもとにやりたるに、太上天皇・摂政・関白など、ものしたまふ所にあたりて、牛かけはなちて、車のしりをば、人のとりて、ものしたまふ」

唐様屋作リノ廂アルヲあじろ造リトシ木ヲ太上天皇・摂政・関白ナド

廂 網代廂 又廂車 檳榔毛ノ車

あじろびさし 網代廂 あじろぐるまヲ見ル

あじろより 網代守 氷魚ヲ取ル網代ヲ守リ其魚ヲ取ル者、アジロヒト、網代木ヲ見ル

牧ノ帖ニ「宮裏ニ今朝霜白シ、あじろより思フニサヨリ氷魚ハ宮ノタメ」

あさこん 自下ニ浅 (一) 海川ナド浅クナリ水涸ル、（岩陸ノ地盤高ク「安星湖」ノ涸ル）

減リ アセブ、ソコル、

久方ノ天ノ探女ガ 万三ノ二十二 怒船ノ泊テシ高津ハ荒ケルカモ

後撰五秋上 東国作 今日ヨリハ天ノ川原ハあさこんナム

（主題歌）「山ハ裂ケ海ハあさこんナム世ナリトモ君ニ二心我レアラメヤモ」

(二) 色ナド 浅ましん、褪ム、褪ル

源ノ女 平ノ八 蔦ノ昔ヲ思ヒテ嘆ルハ木傳フ花ノ色ヤあさこんル

あさぢ (浅) 山朋岳 茅ノ出ヒシ山トコロ、カケ。

万十四ノ三十一 「山朋岳、久宮礼、又阿ゼ」

万十四ノ三十一 女夫ノ上ニ駒ヲ繋ギテ危カド

あさか 形鳥 とぶとりの、作ヲ見ニ

あさかろ ソラ 天鳥井 雅経卿ノ書ハ、歌人、文明五年入道シテ

（雅経卿ノ書ハ、歌人、文明五年入道シテ）

あさかみ　玉島井　備後国の歌枕　玉島井に宿りハ、し　蔭もよし　御水も寒
[illegible]

あさびらん　遊人　市井の間に常職にて　浮浪し居ラ　まさかに来ラ　[illegible]

あさかがは　「玉島川」　川の名　大和の高城山の辺に流れ　河内に流れ（高市郡の北
島川に流れ　[illegible]

此後　[illegible]　世の中に何か定まる　[illegible]
[illegible]　物の変りやすきを　用ひたる
伊勢集「あすか川、淵瀬にかハる、心とハ、ミナかミなモノ、人もイフメリ」△

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

あて（名）阿曾（阿吾兄（轉）人ヲ親シミ敬ヒテ呼ブ語、あてみ（朝臣）ヨリ出ツ）

吉備氏下ノ三（仁連）「内ノ阿曾」（大隅国）

計帳ニ「内ノ阿曾」（武内宿禰ノ裔ナルヲ称ヒタマヘリ）（内ト（ハ）近侍ノ意）

あそみ 朝臣（阿曾ニ臣ノ約ス、ヨシ、借字、朝臣ノ義ニ用ル、省便ナリ）

そん、あそん、（朝臣ノ名、第十等、天武天皇ノ定メタマヒシ第一等ノモノ、臣姓ノ人ニ賜ハル）

（日本紀ニ「朝臣幸平相親之詞」アリ）

続紀三十二 神亀四年 五月「阿曾美奈朝臣」（天下氏姓ヲ定メタマヒシ）

足尼ノ冠位諸如此ノ不必従ナリ

あそん 朝臣（後ノ数ノ条ニ見ユ）

アソビギ 阿僧祇（梵語、数ノ莫大ナルコト（無数、無量ノ義）

法華経、授記品、無量阿僧祇（梵漢双挙ナリ）

あぜち（名）按察使（ヘンせつシ音、約マリテちとん、ちゃ、案ノ呉音、殺、刹、ちゃ）官名（数国ヲ總督シ国司ノ治否ヲ察シソレガ黜陟ヲ行フコトヲ告ヲ、後ニ専ラ陸奥出羽ニ置クル

字ハ坊、按察使ノ官、アンサツシ」正字、三、第四位「あぜッ使」下毛集、官位「按察使（左訓、アセヒ）都督護」ノ臣葉集「按察使、唐名都護」

島津節用「都督、按察使」

続紀、八、養老元年、七月「始置按察使」

あぜち（秦氏ノ将軍ノ名ノ略ス）

あぜびめ（遊女ノ異名、伊勢ノ国ノ名ノ略ス）

あそばす（他四）（敬語、尊敬ノ意ヲ表ス）

（二）奏聞ス、奏聞ス、上ノ立たす、口例（天皇ニ、押退御琴ノ不整ニ、ナリ）

古事記中（仲哀）ノ巻ノ「建内大臣曰恐、天皇猶阿曾波賀其大御琴」（ヲ当テタマヘリ）

（三）結ビテ、為タマフ、雄異他立（イカ、ミ、ナリ）

知る、知ル、保ク、保カ

知ル、知ル、保ク、保カ

例

大殿、知琴ヲ引キ、琴ヲ弾ジ、源氏ノ女五

「ホ、あそばせ、さムヤトテ、私ノ風流ニ、琴ヲ弾キ、アソビテ、唱歌ヒタマヘル、聲、イトオモシロシ」

バ、聲ノ

同紅梅ノ…
「折ヲトケテあ
そばさネト時
ヲ…ヲ…ル所
…ノ音
ナム昔オボエ
ベル」

年二月「吾ガ大君ノ阿蘇巡幸ノ指ノ」取タマヒシヨリ 一カ月三ノ二十八「
「松ノ下道」ユ…ヲ…テ國見所述」
空穂、國…「…ヲ…ヲ…」
拾遺雜下 御若あそばし「ケル」空穂ノ「御若あそばし」
「御休息可…」
(三) 御二…ノ如ク用ヒラレテ、…ス、…「御詠ミあそばす」御…あそばせ」
豊女…ノ如ク用ヒラレテ…ヲ…ヲあそばせ…
御味あそばせ」
幸若、烏帽子折「…ト共ニ…ヲあそばし」…ノ的、チャウト…あそばし、二ノ的、バタト…
…

…ノ…
「月オモシロキ
夜深クマデあ
そばしたまフ」
…ノ…
…ノ…
…ノ…

五

酒宴。酒盛。宴飲　萬葉三ノ三十二、大伴卿

大伴卿讃酒歌「世ノ中ノ、遊ノ道ニ、洽キハ、醉ヒ泣キス

ルニ、アリヌベカラシ」　同、六ノ二十九、大伴坂上郎女

宴親族歌「カクシツツ、遊飲コソ、草木スラ、春ハ生ヒツ

ツ、秋ハ散リユク」

あそび　自己ノ楽　(二)己ガ楽シト思フ事ヲシテ心ヲヤル。(ドウ楽ンロザヨス　心ノユクロザニテ楽ハ)

和名抄七ノ二元駿国郡名「遊々、阿曽加」字孔抄「遊、戯、嬉、アソブ」(遊於百里之外)

古事記上ノ「成婚」北文「遊行」

雄略記前紀「楼岑遊目」　消遥　旅行野ニ」　漢文ニ遊某先生之門」

(三)ハ、ロアリキ天、物見ニ行ク、道遥　漫遊　雄略記前紀「消遥於郊

野ニ」　吉野ニ遊ブ」　玉川ニ遊ブ」　清水遊ビ　遊学ニ　ヨフコトキユレヨリ移ルナリ

後撰　おちオキ、ヒノリア阿ノ鮮比アリキ」

(三)　泳ぎ　神代上ノ「猶游魚之浮海上也」(遊魚ニ文字漢カ)

(四)　神授　ヲ天　水ニ流ル井池ニ長ク下ル平ニ

以本十神代紀、「八日ハ夜ニ哭キ泣ク、

「日本書紀」

神生産、採物、往「瑞垣ノ神ノ御代ヨリ篠・葉ヲ毛苔ニ採リテ、ノノノケラシモ」

(天岩戸ノ前ニテ細女命ノ神楽　潮騒ノ波折ヲ見ハ阿ヶ風ニ乱ル　鮭ガ鱠キニ

(潮騒ノ波折ヲ見ハ阿ヶ風ニ乱ル　鮭ガ鱠キニ

(安曾比

「神殿「ヤシロ」　「ヒ」　「ヒ」　「ヒ

(三) 遊女ノ異其俗ヲ異

あそび 自ロ 遊 (二) 己ガ楽シト思フ事ヲシテ心ヲヤル。(ドウ楽ムルウサヤス 心ノユクマヲサシテ楽ハ)

和名抄七ノ二 元駙国編名「遊々、阿曽加」 字和抄「遊、戯、嬉、アソブ」 (遊「於」百里之外)

雄略紀前化「登楼分遊目」 消遥 遊旅 「於野」 漫遊 雄略紀前化「消遥於郊」

(三) ゾロアリキ天、物見ニ行ク、遊漫遊 雄略紀前化「消遥於郊野」 (遊「於」某先生之門」)

(遊ブ 遊ブ 遊ブ 遊ブ 遊ブ)

(三) 「吉野ニ遊ブ」 玉川ニ遊ブ」 清水 遊ぶ 遊ぶ ヲフコトキユレヨリ移レルナリ

方言ノ丸ノ赤駒ニ

後撰 おケオキ、ヒノリア阿ナ鮮比アリキ」

(四) 神遊ヲ 泳ぐ 神代上ノ十 猶游魚之浮水上也 (遊魚之浮水上也)

水ニ浮ク池ニ泳ギ上ル 未若 其星 日本 日本 長谷 日本 長谷

以遊十神代紀、「八日六夜三昼夜遊戯」 潮激ノ波折ヲ見ハ阿ヲ盟ル 鮮 鱠キ

神玉歌、採歌、篠「瑞垣ノ神ノ御代ヨリ篠葉ヲ千草ニ挿テ」 安宣比

(天岩戸ノ前ニテ 細女命ノ神遊セシ)

「神殿 「ヒ」 里 遊 御 「ヒ」 「ヒ」 「ヒ」

神楽ナリ

(四) 絃竹ノ遊ス、歌舞ナス、空撥、伏隠、上イ十「琴ノ音ヲ掻キタテ」(元)聲張リ

タテテ あそぶ」 枕草子、五十六段 日ヒヒ、琴笛、吹キあそびクラシテ」

(五) 宴ス、酒盛ス、(夏) 乃ち酒宴 酒ヲ

(六) 三味線ノ音、ナブル、嘲ル、馬ヲ調教

(七) 女郎買ヲス 遊郭

(九) 騎堂アリ ツカエテアリ、居ヲトナクテアリ、空手

(十) 浮キタル文字ヲマゼル、(不用ニ、字、御ヒ字ナドヲ入ル)

(十一) 釘刺カズ 釘刺カズ

あそび-がたき 遊敵 男沿ヒ敵 管絃遊戯ノ相手トナル者、アソビトモダチ

空徒 あそ宮 「萬ノ事ヲスルワザナク、上手ニモノシタマル、市あそびなど

ミルタマフ」

あそびきん 遊金 使途ナクテ空ト徒ニテアル金錢、遊金

あそびしごと 遊仕事 学職 十二文化 (ヒカテラニスルワザ)

あそび、あひて 遊相手 アソビガタキ、アソビトモダチ

あそびともだち 遊友達 アソビアヒテ

あそびわざ 遊業 アソビゴト、ナグサミゴト、枕草子五の「あそびわざの水無シ

ムヒトモ 鞠ヲラカル」

あそび-ごと 遊事 アソビ、サ、ナグサミゴト

根岸 木村製

あ、たゞ尺（開手ノ略）（明時ノ朝トナド同例）食指トは指トヲ開キ名廣サナルベシ

神代紀上ノ四十三、自指間湯陸（古事記ニ手俣トアリ）尺ノまゝ借リ用ヰシノミ「尺、寸」義ニ関セズ

大古ノ尺度名、ナホド比ベシ、此語、七尺、又訪メテ八尺トアルノミ其餘物

ニ見エズ

古事記上ノ二十五、八尺鏡訓八尺云ハ阿多（尺ハ尺ノ省字）

神代紀上ノ二十八「八咫鏡」（「咫」ハ「尺」ノ誤ニ関セズ）

廣四寸、両手相加正是八寸」（公望私記）

古事記中ノ四「八尺島」

神代紀下ノ十「横田三畝中ノ島長七咫」

あ、た、恐（八尋）

大古ノ尺度名、ホド、ホド、ナベシ、此語、七尋、又、弱メテ八尋トアルヲ、其物ニ見エズ

古事記上ノ二十五ニ八尺鏡訓八尺云ハ阿多（尺ハ尺ノ省字）

神代紀上ノ二十八「八咫鏡」（「咫」読恐且為阿多「音手之義也」一手ヲ広ゲ、両手相加、正是八寸）

古事記中ノ四「八咫烏」

神代紀下ノ十「横田彦神、鼻長七尋」

あた 仇（當義）（二）我ニ當リテ害ヲナスモノ、カタキ。害れ物、仇アリ」

三攻メキル。我ヲ敵ノ「敵」名義物、怨アタカタキ」

「外国ノ怨」（三）怨モトナルモノ、怨トアルモノ、仇ヲ害ル物「仇カタ」古今ノ要用形

（三）怨ニ敵者 仇字形ノ「仇アタ」「父ノ仇ヲ討ツ」ーヲカヘス」ーヲ報ユ

仇ニ怨ミトナルモノ。遺恨 古今ノ要用形ヲ、今ハあたレ、コレナバ、怨ル

「キトキ、アラマシモノヲ」

（五）仕返 タタリ、復讐「あたヲナス」

（風ウキヲ三ツアル紙、二ツハ掲ハレタ）

あだ 仇（義）

空仇

あだ 接頭（名）

「あだ墨キ」あだ名サイ

空徒

あだ 副 徒（タダラン 要ナク 仇型 イト忠ニ 奥様ニ ナルヒキカケリ）

（二）

空徒（徒撰ノ春ヤ「人カレ」ニ ニサセドシツ ヒトケリ

東ハ 裏傷 花ヨリモ 人ヨリ あだるナリケ」何レヲサキニ

空 あだ 徒ヲ 浮用ヒ 恋ヒトカ見」

あだ 徒 バカナレ サキ

あだ 徒 実ナレ 浮キ ハバキ

あだ 徒 ダラダラ あだ 恋ヲ 朝ダニ 我ガ 撫子 枯ヒヒケルカ」

あだ 徒 花 本来ニ 恋ヒ 浮キ 恋ヒ 「あたレ」ニ ヒ 恋ヒ

浮ヒ ダラ 「イサカ」 あたしき 恋ヒ ツヒ ヒバ ク レト ヒ イライマ

あだ 副 徒 外ト 「名義物、他アタ」 継体 他ノ 他 ヒ マヒ ヒ ヒ

ヒ ヒ ヒ 「夫ヒ 接頭 他ノ 自キ ト

古事記 「他人」 継体 他ノ 「タニ」

垂仁 「他人」 兄弟 他 「他人」 「他人」 「他人」

文選

あだたと 婀娜 〔唐韻〕「婀娜 奴何切」準韻「乃可切」文選 五 洛神賦「轉眄流精、光潤玉顏、含辛茹液、若芳蘭之美人、タヲヤカニ美シキ人、ナマメカシク」

△白氏文集、八「三春後五日、春態華容婀娜」

註典 京都 西羽 ノ髮狀ハ婀娜トタヲヤカニテ楊柳ノ風ニ靡クカゴトシ

あだうな 阿堂 タカイビノヤウニ、徒堂、孝性紀 大化元年 阿堂 直西新書

意仁紀 三 の丁 彼ノ阿堂ヲ殿キヲ直生ス〜シ。サクバ大キヤ生キセム。

空田 御所 幸す

あだ言 空徒 〔間〕 約カ間ヲ 紛 あさめ(祖)ナドアリ 多ク接頭詞如用ヒ

空ヒキ、空言、空事、空言(ハカナキ)イタヅラナル 宮鏡二十七 謂 伊豆池利記 止

「あだ言」「あだ言」 あだ寝 あだ寝 「あだ名」 あだ名

古今、四の「女ノ心ノタヲヤカナル 野辺ニ有リセバカヤナク老ノタヲヤカニナム」(徒名ナリ)

物語、四の「悪ニ「高ク」何ニカセム」 よノあだノ人ハレバ

あだし 形 わたし ノ何、婦人、見慣ノ使、音便 あだ、よ三ノ京都ニテあて

あだなり 徒 物語 「小性」 俗和ニ時ノ「アダブン」 夫木 三十六 「タ幸ミ」

あだ名 徒名 空ヒ名 評判、浮名 後撰 十三、雜二 女ノ あだ名 立ちぬ 名ハ許ヨリ出シガ上ハ ヨモ千ム ロ

謙ニカケテ言フルナト恨ミ ベリケレバ

あだ人 徒人 イヤシキ者、アダ者 夫木 三十七 紫 行幸ん 早ノ 朝 あだ人し 「月ニ」 届テ アカスナケリ

あだ名 空徒 〔間〕 約カ間ヲ 紛 あさめ(祖)ナドアリ 多ク接頭詞如用ヒ

空ヒキ、空言、空事、空言(ハカナキ)イタヅラナル 宮鏡二十七 謂 伊豆池利記 止

「あだ言」「あだ言」 あだ寝 あだ寝 「あだ名」 あだ名

古今、四の「女ノ心ノタヲヤカナル 野辺ニ有リセバカヤナク老ノタヲヤカニナム」(徒名ナリ)

物語、四の「悪ニ「高ク」何ニカセム」 よノあだノ人ハレバ

あだし 形 わたし ノ何、婦人、見慣ノ使、音便 あだ、よ三ノ京都ニテあて

あだなり 徒 物語 「小性」 俗和ニ時ノ「アダブン」 夫木 三十七 「タ幸ミ」

あだ名 徒名 空ヒ名 評判、浮名 後撰 十三、雜二 女ノ あだ名 立ちぬ 名ハ許ヨリ出シガ上ハ ヨモ千ム ロ

謙ニカケテ言フルナト恨ミ ベリケレバ

あだ人 徒人 イヤシキ者、アダ者 夫木 三十七 紫 行幸ん 早ノ 朝 あだ人し 「月ニ」 届テ アカスナケリ

あだ[illegible]と 徒事 空言 [illegible]

あだ言と 徒言 空言、アダクテ。 空言ナキコト

物ノ今ノ[illegible]ノ 相撲草「[illegible]」 ケードリ

あだ[illegible]もの 徒者 物 空手物 [illegible]

あだびと 徒人 心ニ実ナキ人 [illegible]

あだ[illegible] 徒櫻 [illegible]

あだ[illegible]かな 徒蹴 徒ニ蹴ニ

あだしの 化 徒野 化 徒畑、野ニ成ナルベシ 死屍ヲ埋ム野 埋葬地

果ツルナキヒナビ 徒ニ草ノ[illegible]「あだ[illegible]」 [illegible]元時ナリ 鳥辺山ノ畑ニ[illegible]サラデ[illegible]

あだしびと 他人 外ノ人ニロ、他所 垂仁紀。 勿往他方

あだしをみな 他女 外ノ女 [illegible]代ノ三四「用他姫婦ニ以乳養皇子焉」

あだしの[illegible] 徒野居 他 (歴ノ[illegible]居、[illegible]野ト[illegible]ル後) 他ニ[illegible]同ジ

源平盛衰記「[illegible]」 我レ標結ム路

あだ[illegible]

あぢさゐ　鶴（集群ノ意、播磨風土記揖保郡香山里、阿豆村「於此人衆集キ談論、故名二阿豆一」）又、あぢ、能ク群ル意ニ名アリ　あちかたヲ見ヨ

あぢさゐ　紫陽花（集真藍、約（真青、さを）花色変化スル故ニ変化ノ名モアリ）又、アヅサヰ　カード入ル

あぢむらノ語原ヲ見ヨ

万葉巻十七「味狭藍」

字類巻十六　性冠ニ使ノ字ニ「安知太井」、和名抄三十ノ十六「紫陽花、安豆佐井」名義抄「同、アヅサヰ」字鏡抄「アヅサヰ」万三十ノ四十五「花佐倉ノ八重咲クコトク」

六帖ノ「あちさゐノ花ノ四片ニ」

あぢ　鳥ノ名　あぢむら、あぢがも　鳥ヲ見ヨ

あだじけなし　形一　『名』（決名新撰、甚レノ約、空ニ名レシ意ナラン）　あだしけ、からし　形一（徒塩ノ義、空ニシホカラシ意）塩味過ギタリ、料理ニ云フ

あたゝ　自四『剥』（言ヲ二面ニ）　融ズ、合ス、（此語ハ上ニ「あたはず」ヲ打消ニ用ヰタルヲ見ルニ、あたはヌト将然形ニ用ヰタルヲ見ルニ）

神代紀、下ノ三十一「真麻麻ヲ阿豆豆播メカモ」（あたはり）

萬代集ノ雑六「何ヲ名ヅ裏ヘマシ、こゝに、あたはヌコトノ多クモアルカナ」

十訓抄二「心操振舞ノ事」「十徳無カラム人ハ判者ニあたはズ」

あたゝ　自四『舞』（前條ノ語ノ対、我ガ力ニ適フ意）己ガ力、能ク為ス限。

此語、上ニ「あたはず」ヲ打消ニ用ヰタルヲ見ルニ、将然形ニ用ヰタルヲ見ルニ、デカス、堪ヘ、敢ヘ、名義抄「不能アタハズ」字鏡抄「能、耐、勝、堪、アタフ」竹取「カク近クルヲ翁、法ヲ敷ク、あたはぬ（婚）（條ヲ見ヨ）」

凝ツテ、思ヒ寄ニアタハズ」

あたふ（他下二）與（適ふ）の他動、たぐひ（類）たぐ（副）（例）

我が物を他に与へるなどして其人の所有となる。賜る。ツカス、ナル、クル、

。取りあたふ（取ッカス）（取ッテ受ケカス）

あたはず（熟語）あたふ（能）見ず、

不能

あたはず　自四（婚）（適ふ）の敬語（嫌ひ）

（其作ル）

多波之と熟語三用ヰ元美刀（ミト）（床）共寝（ネ）ス、合ヒタイフ。語多ス美刀阿

古事記上巻三十七、大穴牟遅神ト八上比賣ト「如先期美刀阿多波之都

神代紀下ノ巻「皇孫因而幸之即夜而有姙」私記「幸之、美刀阿多波

之津」（皇孫ト寇ヰ幸津姙）

雄略紀元年三月

童女君「天皇與一夜而脹（孕）」

（與ハ共寝ノ意）

（雄略紀）

（雄略紀）

（雄略紀

何ヲ見・見ヒムトカ見シ」（浮

（三）イタヅラナルて、浮キ名ハイ、生涯

（浮

浮世

（菅家萬葉、下、春「咲ク花ハ千種ナガラ

浮ナレド誰カ春ノ惜シマザリケム」（一本）

古今、四〇〇「女郎花、多カル野ニ、荒ッセジ

六帖

牧動撰〇、夏、二「高クモ、イカニカセム、と、竹ノヒトよフタよノ、あだノふしヲバ」

あだ

他ノ外ニ移ル心、アダモコロ、風俗歌、学陸歌「常夏ノ花ノ下ニ、田フヨ作ル、

女太ヒ巳呂知（持ノ誤ニ）ガ山ノ越ニガヲ越ニ

雨夜考セル、

あだし（形）「異」（徒）、浮キ名ニ、ト「引振ナルカ」異ナリ、外ナリ

あだし形

榮花、玉の上「殿ノ御ヲ、御聲、アマタ、ヨジテタマヒ、あだしう聞エタリ」

御藏法ニ

あだし（接）徒ナル制作ニ

あだあだし形ニ「徒ニ」徒ナリ、實ナシ、源末橋長、ここ野あだあだしきルマヒ

クもだあだしきけれド本性ノ人ガラ、ト言ハバ女ノアリサマ、苦シナラム」和泉式部日記「色メカシ

あだし（接形）「徒」（あだあだしアルド徒レトモ形容詞アリシナルベシ）

（語

（黙シ国

悪シ様

空シ車

同じ年」

同じ年

ナドト「同」用ヒ

徒ナル、空シキ、虚ナキ、「あだ

し契」あだし世」

あだし（接形）「他」「異」（あだし（異）ノ終止形、用法、前條ノ語尋ノ如シ）

外ノ、異ナル、別ナル、継体紀、元年二月、註「他曽倭」「他」名義抄「他」

ホカ」あだし人」あだし國」あだし事」

あだめく 自四 「徒」 徒ナル若サリ、アダアダシク基、アダクル、ウハツキタリ

考徒紀 大化二年二月 「勿為放逸」 国司郡司勿之勿之

溪嵐木の口 「若リ情ニ引キコメラレテ取リナセバ あだめく、コレヲ初ノナニトスベシ」

難

あだめく 自四 徒 アダクル、アダアダシク基、ウハツキタリ 結果ノ物名ノ花ノ色ハアラハニ変ズレバ あだめきヌイザク

ラマニニ ナリテ、カザサム

あだし 「徒」 徒ニキ、ハカナキ、「あだし契」あだし烟

前條ノ徒ノ「空」「空レ事」同じ年婚レ変ノ用法ナルベシ

あだし事

(接尾) 空レキ

あだし 自 接尾 他 我ナラヌ意ニ移レル語ガ

(前條ノ徒ノ「空」「空レ事」同じ年婚レ変ノ用法ナルベシ)

(古ヘレ)

(国法、前條ノ徒ノ意ニ近ル語)

(ウレ) 継体紀元年ノ条、「他ドモ欲」

外ニ別ハ用ヰナル

「美し妹」 空事

召ス外ノ他アダシ女

「妻」 「妻」ハ人ノ妻ノ「妻」ハ人ノ妻ノ用ヰ

あだし・ちぎり　徒契（徒ハ虚空ヲ見ル意。空キ契、ハカナキヤクソク、
居性ノ意ニ「人ハ、イザ、あだしちぎりの言ノ葉ヲマコトト頼ミヤ待ナ
ケルラム」）続千載ノ意ニ「結ビケム あだし契ノ曇リケム、ソヒ・絶エズ中トナルミモ」

あだしけむり　化烟（徒シ（虚空ヲ見ル意）空シキ烟、消エヤスキケムリ、
茶毘ノ烟ナドニモ）

あだしたまくら　他枕（万土集ノ「天雲ノ寄リ合ヒ遠ミ隔
ルトモ異手枕セシ種カメヤモ」
他枕ノ人ノ手枕ス
思フ人ヲオキテ他ノ人ノ手枕ス）

あだしよ　徒世（ハカナキ世ノ中、無常ノ世
（後撰ノ意ニ「雑下」何時ヲ堂ノ現ノホドヒトモ見定メガタキあだし世ノ中」
（後撰ノ意ニ「雑下」限リヤト風クヅ迷ヒ　しせノ中）

あだしひと　他人（外ノ人、他人、ヒト、名共他土集ノ「是歌不可解」他人ノ
（サラヌナラヒナルドモ）

あだしいだと　他妻（外ノ妻、経妻　他体他ハ、自己ノ「酵妻」
（タクヒコ）

あだしくに　他国（外ノ国、外国、異国、異国ハ、他ノ国ノ意ニ「異俗多年」
（アダシクニ）

あだしむさぶ　他心（外ノ後ノ心、古今ノ東歌「君ヲオキテあだしさ・ろヲ我ガ
待ツ年ノ山ノ木ノ葉ニ」

あだたらすみ　安多良真弓（陸奥国安達郡、古稱、安太多ヤ多ヤ多ヤ
（太
通安多知ト云ヒ音ニ移リ変リ今モ郡西ニアル山ヲ安達太郎山ト云フ）
古今ノ山名代風
陸奥ノ安達郡ヨリ製出サル弓、又あたらの真弓、
万十四十六「ミチノクノ安多良末由美弾キオキニ」
古今ノ（二十）採物「ミチノクノあたらの真弓我ヒ引ケバ」

あたらのまゆみ　安達真弓　あたらすみ　あたらすみ

あだなみ　徒波（イタヅラニ立ツ波、ムダニ立ツ波、人心ノイタヅラニ思ヒ騒ブニ譬ヘテ云フ
古今ノ恋四「ツレナキ浦ヤハサワグ山川ノ落チ激ツヨリあだなみハ
立ツ」後拾遺（十五）ノ恋中「カヘリテハ思ヒ知リタヤ岩角ニ砕キテ寄リケル浮ノあだなみ」

あだな

渾名 綽名 徒名ノ移リタルナルベシ 古今注ニ或ハ仇名ノ濫ナル

（キカ）人ノ醜貌悪癖非行失体ナドニツキテ他ヨリ嘲リテツケ名ヒナ名ヒ名ヒ

ヒナ醜名ヒ、字ヒ見合ハ、ヒ

見聞集（慶長）四「訳ニモノナキニ八年寄ノまんかづら、はをぐりナドとあ

だなニヒテ若キ人タチ笑フ」 古クモ後京極兼ラ七日関白、後京極殿

ヲ空秋大将、後阿部左府ト呼ビ徒然草ニ見元伐株便ニ、掘池僧

正又法印個吉ヲ犬公方ナド云ヒシモあだなナルベシ

あだなみ 自四「怒ル 代怒ヲ行フ 白ふ、都ふ（同例）怒フ、怒ス、公ス

神代紀上「新賊天心」 神武紀「賊害之心」 雄略紀「三年」「侵寇傷郡」

直代紀「新羅寇」

任那

徒名ヨリ移リタル

あだな 渾名 綽名（仇名ノ濫ナルベシ）人ノ容貌悪癖失体ナドニツキテ他

ヨリ嘲リテツケ名ヒナ名ヒ

藤原定家卿日記 七日関白後京極殿ヲ空秋

大将、左府ヲ悪左府、徒然草「仇株便ニ」掘池僧正ニ個吉ヲ犬公方ト見ヒリ

見聞集（慶長）四「訳ニモノナキニ八年寄ノまんかづら、はをぐりナドあだなニヒ

ヒテ若キ人タチ笑フ」

あだな 徒名

春日紀 初考試選

東京 若年寄

今文ヒとあだなナリ

井上馬

あだし

あだし 徒

あだな

あたはら 痛（イタダウ）

いときなし、あとるゝ（ゑ）

痛（イタダウ）ハ、疝（ヒ）ハ、ヤ（腰）ハ、ヤ（腰）ハ、ヤ（腰

此傳ノ假名遣、古書ノ訓ノ皆ナリ
なひすりあ
たへとたハ
ゆすりあ
ひべノ傳ノ
誤

日本世紀
之新

あをひ直（前條ニ詳ニ）其詳事ハ傳ノ代リ天皇ニ代リテ
其地方ヲ治ル意ノ上古ノ（ヒビ）北方官ノ名國造、同（ミヤツコ）稱ナドノ如シ
縣主
（ムラヒノ名ハ六ノ條ヲ見ヨ）後ニ戸ノ名トナリ後ニ又連ニ入ル
姓氏錄、右京皇別、佐伯直「天皇詔曰「直汝為君治之」昨賜氏針
間別佐伯直姓」註「番
「直謂君也」
神代紀七ノ三十三「天津彦根命」註「是九州内直、山代直等祖也」
致明紀ノ「坂上直」
異伝紀ノ「紀直」神武紀「宇佐ノ「宇佐直」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あたひ 直 〔前條ノ譯同シ〕 價ハ代リ天皇ニ代リテ

あたひべ 名 直部職名 戸名ノ直ニ同ジ 伴部、服部ナドモアリ

神武紀二「椎根津彦此即倭直部ガ始祖ぞ」私記「直部、

少太山信」和名抄「和泉國、和泉郡、山直、世末多信」トアルハ姓

氏録和泉國神別ニ山直トアリ其山直部ノ住地ナレバ地名ヲ二字

ノスル制トセル時ニ山直ヲ省略シテ山部ト云ヒ神武紀「倭直部」神代紀

前紀註「宍戸部」皇極紀三年「長直」三字ヲ皆あたひべノ

誤ナリ

高市郡講

神武紀二「椎根津彦此即倭直部ガ始祖ぞ」私記「長木山部」

神代紀上「椎根津彦、倭直部ガ始祖ぞ」私記「長木山部」

あたひ 直 〔商〕ノ名詞形、品位相当ノ意ニ出ル（類聚名義抄）

（一）貴賣ノ物ノ代ニ充メ充ル物又其金高。直。代。直。直段。代。

名義抄「直、賣、アタヒ」倉明 沖縄ニテモ「あたい」十一

五年七月「持ッ煙草一枚稱其價」

（三）價ノ代ト云フ 物 其 又金錢、駄字化 「不以直買」欽明紀

「三月八日」衣類費、臣皆洗結ニ延慶年家、五ツツク世間ノ相ヲ見ル
直ヒ代リハナケレドモ大事ノ時ヲユヅルハ父母ニ親ニシクナシ」

(三) 人、又物ノ品評ネヤ、品伝

あたひ元 直部ヲ量ヲ

あたく元ルたへ 自上ニ浮塗 あだくニ同ジ、アダメク、ウハツク、フザケル

狩衣、一、下ノミナ「大殿」コソ、ナホ、コレ申シナホシタマヘナド言ヒあだへツ 敵カタ

キヌ衣ヲ切ニ引キノケテ顔ヲ見ルニ」

あたま元「天窓」(一) 頭、小児ノ時 ひよめき、そうたいとこフ霊。和名抄三ノ

「顯倉二名、天窓、阿太萬」

(三) 特ニテ、頭、カシラ、頭髪 木拳、牛拳ニ支「拳椎歌」木拳ヲ載キ」

史記抄(文明)苗ノ五十「檜皮ガ落チテあたまヲ打タワリ」俳諧の蕉門(紹

(四) 物事ノ上又ハ初ナルカトコロ 頭首 五四 「美山ノあたまニ雪ヤ古帽子」相談ヲあたまカラ打消ス」

(五) 頭立ツ者、長 首領 「大あたま」(大家、富豪) 「あたま株」

(七) 髪 「あたまヲ刺ル」「あたまヲ結フ」あたまガ白クナル 髪

(八) 髪ノ結ハ 髪ハ男色ナリ(元禄) 浪人ナレバ紫ヤノ病象(分中ヤリナテノ

丹前あたま(立髪ナリ)色三條(寛永) 「向カフ」ヲル男、当流ノ後ガリノあた

ま」(又金ハ髪ナリ) 「奴あたま」 「色頭あたま」

○あたまヲ ケル、出ル 知ル、出世ス、立身ス

挙 成ル出ル

(至間、奥、至高ノ意ナル(キカ)(あさむ)(あさむ)(誤)こたはら、あたはら(死)ナドアリ)

(三) 人ヒトリ

子ヲ産ム頃、一人前、人頭

「あたま数」

あたま三割

(四) 政略ノ

ジヤマキカシヘ

「あたまガ銃ニ」

あたまヲ

「悩まされ」脳力

○あたまヲ掻ク　恥　失笑リテ恥ル

○あたまヲ下ゲル　敵ニ従フ　屈伏ス

○あたまヲ横ニ横ネル　うはまいヲ取ル

○あたまヲ図メル　髪ヲ悪ク刑リ落ス　僧ト

あたまかず　頭数　人数　「頭数多人」

あたまかず　頭数　長名者　剃髪

あたまおろし　頭髪　人ノ出家ノ時ノ剃髪　最初ヨリ　言ヒ伏セルヲ

あたらし　形ニ　可惜　惜シ　惜シム　惜シムベシ

古今　沈ヲ三十三　「離田之阿多（ミヤ）（ヒ）　堀潮者　地名　阿多ニ長斯トコソ」

（刑ヲ）

万十三ノ九　「安之恩之君カ　老ユラム惜シモ」　良

大不二三三島　「あたらしヤ　蛟矣カ千島ノ　掻乱　眺ル色モナクテ散ルラム」

あたら　接頭　可惜　（可惜シノ語根）　惜シキ。惜シム（キ）。アッタラ。（音便ニ）

名義抄　「可惜　タタラ」

雄男ヲ陸ノ　「誰レカガケムヲ、阿極道墨縄」

（刑セラレムトスル時）

「あたらしき　あたらしき　掻　工匠ガ刑セラレムトスル時」

後刑

万二十ノ十五　秋ノ花ニ雨ヲ降ラスシテ　安之良　盛リタル間　「あたらしき事」

万十一　「メヤリシデ明ケマク惜シキ　怯夜ヲ衣手離レテ　獨モ寝ム」

あぢつけ・ワ 味付海苔 浅草海苔ニ薄キ醤油汁ヲ塗付テ炙リタルモノ

あぢまさ 檍掃 拙名、檍掃ノ名ヲ蕾ツレド我ガ邦ニ檍掃ナシ蒲葵ノ事ナルベシ びらウノ條ヲ見ヨ

古事記中巻ノ「檍掃ノ長穢ヒ」ヨリ下(仁徳)ニ「阿曇麻佐ノ島ヲ見立」

本草和名ノ五十七 檍掃、阿知末佐ノ名

淡路ニテ大漁祭ニ

天智紀ノ「狹井連檍掃」

あぢまめ 蠶豆 蠶豆ハ味ニ豆ニ義ニ名ル カ

宇治拾遺五十五 竹取ニ圏ノ姫ニ魔豆ヲ与ヘ阿比方ヲ

本草和名下ノ四十三 蠶豆、阿知末女、和名抄 蠶豆 蠶豆

あぢ 鯵 (一)カナヲトエナヲ、(二)カナヲノ物ガニテトナリコナヲノ物ニガカナヲドナレ、

ロッキコッケ、マイラエチ アリキヨリヤ、アベコ、及幡 「右ハ、カアチコチニナル」

カ(苦ウラ)ス 顔俗

あちゃ山茶 彼此 あちゃちゃ同じ

12
15

あだけ 徒長 宇治拾遺、三「川ナドモ片方ノ倒レ」

あだけみ 徒気 ハカナキサマニ、脆キサマ

あだく 自ニ浮気 徒ヲ浴用ス 浮キテアリ、ハツス

あだたけたと

あだけ 浮気 アダケヲ、ヒ 源女、三「昔、今ニ、世デセタマヒケレ、何レノ御ニオハレヤシツラム、今デサヘカ、ル、あだけ コソトモ、アヘリ」ハ若宮上十八「昔ヨリアマタ経マサリテオボサルレバ、テモ人ノ御あだけ 脆キ、

モ且ハ、世ノモドキヲモオボシナ

木木キ

あぢきなし（形ク）無味　（味なく無しとなり）

（二）憚ナラズ遠慮ナシ、神代紀上ノ云フ「素戔嗚尊之為行甚無状」（新古今ニ素マリ助ヲ刺サヌ程ニ投入レタマシヲ云フ）

カナリ二十一小夏奈九何ノ狂言今更童言元老人ニシテ

古今三ノ「時鳥初聲洩ケバ人あぢきなく主度マシク思ヒたんハタ」

（三）無益ナリ（セズトモヨキコト）（イフヲヨトナリ）詮ナシ　無益

ジキ名ヲモ流シ」　詮ナシ　史記伍子胥傳

（三）面白ナシ　妙ナリ　無味淳ヲ本ニ　長キ世ノ物思ヒニたんイトあぢきなき世ヲ

（四）ツラシ、ナサケナシ　無情　実ニナセ、奥「恵ヲノミさ

（入江ニ棲ム魚ハ浮キヌ沈ミヌあぢきなの世ヤ」

☆新古今ノ「あぢきなく（下ノ待ツ出セン）ツラキ岸辺ニ夏ノ日ナドタ暮ニ（待ナラヒケム」

（おけ一書）

あぢきなし（形ク）阿知女阿女前（阿女槽）（ツ）（ツ）（ツ

あちゃづけ（ミ）（佃煮ミテ物事、無差別ナルコトヲあちゃと云ヲ折衷セテ漬ケル意ニモアラムカ）漬物ノ一法、沖味淋酒ヲ程ヨク煮ツメ、唐辛ヲカヘテ能ク煮ツメ、ツヾ酢ヲ少シ入レタルモノニ大根、蓮根、芋茎ノトヲ刻ミテ漬ク

アチャさん　阿茶（阿爺ノ音ナリ）

長崎ニテ唐人及ビ支那人ヲ呼ブ称、親愛ノ意アリ　支那人ノ寺ヲあちゃ寺トス、

あちゃまし

あちゃら（ミ）　阿媽　阿母ニ同ジ、ハハ

あづかり　他四　預（預ケラレ委任ヲ受ケ保ツ受託　名義ヲ領アヅカル）仁徳紀ニ「臣所任屯田」孝徳紀大化元年八月「詔国司等曰ク、国家所有公民（公経ノ民）大小所預人物、及授田戸口、悉自牧租時賜此民為治是私経ノ民」汝等之任皆作法錯　郡県ニモ鈴ヲ「丸行章程」ヲ定メ、田印并駅鈴伝等ヲ主鈴奨ヲ他言ヲ共預供奉　大和物語五「夜書ヨレヲあづかり」

治田ヲ韓ズ上ヲ麦ヲ下自動ヲ

（ヲ）敬ヲ所相ノ

あづく　他ハ二　預（ヲ）（ヲ）附ク（ヲ）ノ墨ヲ（ヲ）

援ク（ヲ）ヲ助ク（ヲ）

（ヲ）

（ヲ）

教育ノカミ「あづかり」由

あづかり「預」(二)預リタル事、引受ケテ有ルコト、受託「預り金」「預り諸事」「預り主」「預り物」「預り手形」「預り人」

(三)委任ヲ受ケタル者、「漢書摘義、二十七「市車去ツベキ門ハマダアケガリケレバ

鑑ノあづかりヲ存ネ出テタレバ」

其空穂、四多年君ノタカモトノ御子ノ為ニシタマフトコロ「車ニ奥盗徒ニモテ

来タリ、あづかりドモ数ニ取リテ居ニエエテ去ル」

(三)一所ノ司ノ長、「御厨子所預」「者所預」「畫所預」

(四)未決ノマニナレオキテ直テ決スベキモノ、保留スルコト、「相撲ナド勝負ノあづ

かり」

八、正

△日光ノ暑キ

元年十二月

三月

苦ト悩ム、問ヒ苦ミ悩ム、

(二)熱キ苦シ　神代紀、上ノ上「伊弉冉尊、火神ヲ生ミ給フ時、悶熱悩惱ス」私

記「安豆加比」算疏「火氣之傷也」字鏡、十「傷熱、阿豆加布」

(三)思ヒ煩フ意。物ニテ、問ヒ悩ム　焦慮

雄略紀、三年「悩惱」継体紀、「恐ル永悔伏世汗流」

孝徳紀、「悩惱」三代実録、「思ヒ熱可比、憂ヒ歎」

好忠集「ドカミテ涼シヤリケル夏日ヲ思ヒあつかふ　コトモナキ身ハ」(暑ニアケタリ)

涼ヲ求ム

源氏葉、二十四　源氏ヲ君ト申ス侍ノ中ヲ「人々ヲ思ヒ　九月ナナトあつかふ」

四夕涼ム　病者ノ事ヲ思ヒタイ(あつかひ)ハベルホトニ　少女、四十三「ナツヒヤ、アヒト

思ヒあつかひ奉リタマフ」

△土佐日記　正月十五日、「今日あつき物を煮て」空穂、巻頭「あつき物一杯」和泉式部集「あつきかな」

△主水式「正月十五日供御七種粥料、米一斗五升、粟子、稗子、小豆各五升、塩四升」

あづきのほろ　名　(花ニ甘臭アリ)

赤小豆ノ花、薬用ニシテ漢名アレバ特ニ一種トスルナリ　本草和名下ノ四十三

「甘婢、豆華也、阿都乃波奈」(和名抄同じ)

あづきめし　赤小豆飯　白米小斗　赤小豆一升　炊キ名　アカノゴゼン、アカノマンマ

あづきかゆ　赤小豆粥　赤小豆二合、少シノ塩ヲ加ヘテ　色紅ナリ　民間ニテ

大師講ニ煮テ供ス　△宮中ニテ　赤小豆ヲ入レテ煮名粥、四位侍時、特ニ二月十五日ニ

五日、煮小豆粥ニ云ニ　経年無疫気

あづきがゆ　赤小豆餅　餅ヲ固トシ　赤小豆ヲ塗ル　牡丹餅、萩ノ餅ナドニアリ

あづきせん　「麿考」文集、白氏中ノ傑作、其全部ノ作ヲ屋倒スベキノ

あづきかゆ　赤小豆飯　飯ノ俗ニ　餅ノ俗ニ

あつけ暑氣（二）夏ノ暑キコト、アツサ、暑氣、

森

あつかはし

あつかはし　形シ　（問熱）（アツカ）

暑熱シ暑苦シ　暑熱シ　アツクル

源　「蟬ノ聲ノ熱かはしき」

源　「水ノ上ムトクナル今日ノあつかはしサカナ」　紫式部　根合「御方々ノ御方ノ御方ノ御方

あつい　暑熱（二）夏ノ暑キコト、アツサ、暑熱、

為忠集、涼シク衣キ軽シ、夜川、あつけ　ミヒカヘルサノ森

（三）暑気至ニ化サセラレ病ムコト、中暑。

狭衣、四〇〇「母上、ナヤマシゲニシタマフヲ、例ノあつけニ、サノミコソト」

夏ノ方ヨリ

あつけ　（回）呆然　あつけるとられたあんけ、保ラ暑ニ

あつけ　（副）暑熱、暑キサニ、アツサウニ

秋草ヨ

あづけ　（動）あづく（預）ノ異

あづく　他下二　預

あつけらかん　副　あんけなし ノ異

あつかはし　形シ　苦熱　（問熱ニコリ難ズ煩ふ、ぐらなし）

暑キ苦シ、暑苦シ　暑熱　アツクルシ

源氏、夏、「水ノ上、ムトクナル、今日ノあつかはしサカナ」　蜉蝣、根合、「蜉蝣ノ蝉ノ声ノあつかはしき」

トヲ　秋ノあつかはしきコトナス」

圭キタマフ」（「音楽」心苦シ）「あつかなしき乱レ、鬱乱レも知ラ

あつかなし　形ニ　強顔（厚顔ニ洛風ス）アツカマシ、厚強シ、

あつかち　強地（生ノ付代ニ墓所ノ名ノ預リ屋ノ地、預リドコロ、

墓所ノ方ニ就キテハ、あつかち地ト云フ

あつけち　強地　あつかちノ異

あかふ　他四　抜一　[illegible]

(二)　モテアソカス、用ヒル、使用

又　枝草ヲ、ハ「笛」ノ笛ニ、所狭クモアツカヒニクソ思ン」

未ダニナセ「山鶴」ノ巡ス胡桃ノ[illegible]

槍ヲ切ツカフ」長カラ切ツカフ」

(三)　マカナフ、セハコヤク、ハカリ

取リカヘス　大銭、中「[illegible]」年頃ノ女ド[illegible]

(三)　マカナフ、

計ニ行フ、取リカヘス、変理「[illegible]」

(三)　モテナス、アヘシラフ、待遇「[illegible]」

(四)　[illegible]

(五)　[illegible]

戦争

あつかひ　話柄　モテアソバヒノ種　狭衣ニ、上ノミナヲ、今姫入内「メデタキ[illegible]」世ノ人ノ

物ニモヒ　聞キニクキモノニテ　此浮ノ上　あつかひ　ヒさ　コソ言ヒノ[illegible]ケリ」

あづち、だ　坪形　坪ノ形ヲ見ルモノ　あづち　俳ヲ見ヨ

あづまあそび　熟語ヲ　藝妓ヨリ俗ヲ見ヨ

あづまおとめ　東女　東国ノ女子　又あづまは少女、

万四ノ十八「庭ニ三千麻ヲ刈リ乾シ吉き倭ノ東女ヲ立レタマフナ」常陸娘ノ自称ナリ）千葉ニ在ル三「麻手乾ス　あづまをとめノ萱笠」

上ニ立ル女ニ

あづまをとこ　東少女　あづまをみなニ同じ

あづまをとこ　東男　東国ノ男子、アヅマヨノヲ、アヅマビト、

万万十八ノ十八「鶏ガ鳴ク安房ノ麻手能故ノ出デ向ト顧ミセズ」

源、詩ヲ九十二「アラミチ　あづまをとこノ腰ニ物佩ベルアタ見ル」

あづまをとこのさ　東男　あづまをとこニ同じ

職名ノ名

三代要録

（紫式部日記ニ）

（紫式部ノ）

（慰念ス）

あつかふ　ノ（三）心ヲヒス。紫ヲカフ　注意

源、手本四七「コトヒト雑ナ　あつかひ多カリ」

枕草子ハ　あつかしけるもの「チヒサキ小供ナド、アマタ持テ　あつかしタル」

七「多ク取ラントヲ　あつかフ者ハ、ナカナカ　ヤチボウテ　あつかフホドニ」同

宇治拾遺　七ノ五條「御旅所ノ三條ト　あつかふ　ヒテ　あつかふ　ヒテ」

女房ニ、唯ノ　能ケバ　北ノ方ヨリ　清ノ　ルヤウニ　ケバ　供人ニ

△十二ノ　ウ　ウ

あつさ　壓氏　ケサン、ケイサン　文鏡、

あつさ　あたり　暑中、（三）日射病、中日暑

あつかさ　暑　あたたかい　言葉

あつで　厚手（南　草様　錦織様ノてより）紙　織物ヲ　厚サ　厚キ　モノ　ヲ言フ　厚原

様ノ　様ナド　長ケレバ

あつど　壓度　壓力ノ　壓ヲ　ホドヲ　ト、

あつとり　獵文島　音便

あつぢがた　埣形

あつく　他ニ　預　（充　附ク　議　選ベン　あてがふト　同意）

參ラ　カラム。伊勢集「春宮ノ女御ノ御方ノ花ノ賀ニ召シ　あげサシメ　ケルニ」

今參　預

あつけさう　夏　假粧　白粉　裝ヒ　假粧　化ケ　薄キ　薄　假粧　ト云フ　淡粧

あづけち　預　あづかり　ちゃ　濃粧

ヒ　ア　ヲ　ハ　ダ　ラ　ク

あつたの子　阿三那出之罪（熱るを義とす）

罪、重き病なり　あつたふ　あつしき意の説アリ

神功皇后ノ御代ニ紀伊國那賀郡小竹ノ神ノ祝ト伊都郡天野ノ祝ト二人夜ガリシニ小竹祝死シテ天野祝逃ニ其屍ノ側ニ伏テ自殺ス此怪ヲ阿三那出之罪トヲフ（神功紀）

あッしょう　厭勝　えんしょうノ誤読

あつただみ　厚思覆（ただみ　今ノ歩ノ字ノ誤）

あつびゑ（厚恵　厚思覆）　アツダタミ

あッのぶ　あッぷ（副）　水ニ入リ口ヲ上ニ出シテ辛ウジテ息ヲ出ス時ニ云フ俗

あつびん　厚鬢　うちびん　俗ニ云フ

あつぶと　厚徳　ふとしりがい　俗ニ云フ

駿河舞ニあづまあそびトアリ

あつぶる　厚絵　ふとしりがい　俗ニ云フ

あづま　東吾妻（明端ニ曙ト書ク）

（東北ニ足柄山ヲ隔テ西ハ山東諸國ヲ合ハシテ東國トシテ古ヘハ蝦夷ノ居ル所ナリ）

（秋津島ヲ蜻蛉ニ言ヒ掛ケタル　萬葉集ニ東歌ト云フ遠ク信濃ニ東陸奥マデナリ）

今ハ東歌ハ勢ヒ東ヨリ遠ク信濃國ヲ東ヨリ詠ム歌ヲ云フ

（ヒガシ）　ヒガシ　東ノ　東ノ　東ノ　東ノ　東ノ

見ネバ　あづまのたとい　知ラレサリケリ　東歌

「君レテ　あづまの　持ツ　用ヒル　モノ　詩曲　葵上　「生霊　死霊ノ間ヲ　あづまこカ　ケ女ヲ　ヤ」　三　持ツ　用ヒル　巫女　修ヲ　巫ヲ　舊稿合類物語「神」　巫ヲ　請ジテ　あづまこカ

あづまこと　東琴

あづまこと　東琴

あづまこと　東琴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさましのき　暑湯　暑気ヲ堪ヘ難ク「あさましのき」ノ湯ヲ飲ム　耐暑

あさましの木　暑除　暑気ヲ避ケ涼ノ処

あぢさゐ形　無味（面白ミナシ）オモムキナシ

（二）不味ニ（三）

あせしとど　（副）（しとどヨリ見ヨ）甚シク汗ヲカキテ衣服ノ肝　経傳集「中将ノ夏

あせみどろ　（副）（みどろヨリ見ヨ）　肥エタル物ヲ被キ耳ヲフサギ目ヲ

しとどヨリ転ジテ風ニ

アセシトドニ　肝ヲ流シテ　あせみどろヨリナッテ　僅ク

あぶら　牛　ぶし　小袖　ちらし　牛　けし　泉

ぶし　花汁　ぶし　足台　裏みせる　煙ぶり　たばこ　田五ガ木

久都ミ　保守之　不　鶯鳴　地鳴　小鳴　鶯舞　鶯笛　鶯子　あぶり

あづま　東国（借字ニ吾妻ナド書ス）明端ノ男トスフ（朝モ明時ノ意）鶏ガ鳴
くあづまノ注アリ東方天明ノ義ヨリ景行紀ニ日本武尊ノ故事ニ因リテ山東諸国
ヲ吾妻国トスフルハ誤解ナンベシ（秋津国ヲ蜻蛉ニ言寄スル類）遠江信
濃以東あづまなり

（二）東ノ異名、又東方諸国ノ総称。

やまとたけのみこと「東国」武取之地、景行紀、二十五年七月「東方諸国」駿河
（三）東国ハ御ケヤリヒミ国リテあづまハ辺鄙ノ意トナリまの者ノ俗ヲ見ル
吉事（神祭ノ下ノ三十七）榊ガ枝ハ本枝ハ天ヲ覆ヘリ中枝ハ阿豆麻ヲ覆ヘリ下枝ハ鄙
ヲ覆ヘリ」（三）あづまうどノ男英俳ヲ見ル

△源若菜、四十
「あづまの清掻
キ」河海抄、あ
づまハ和琴ノ異
名ナドトス又東風
トテ秘曲アルナリ

病者

病者

あつしか一覧（説文「人将甚」語原ハ熱シ）病貴身ニ熱
アレバ云フ、同熱ニ、あつし、あつしる、あつしき皆同じ後ニ唯病ムコトニ移ル
病重ル、アツシ、アツシル、危篤ナリ、形ニ、ナシ、あつしきトモナル
源夕顔、三十四、御首キニ掻ク身モあつき心地シテ」同若菜下ノ五十二「イカナル
御心地ソトテ探リタマヘバイトあつくオハスレバ」同手習、六、「ウチハ身モみだル
ル相ニ、御息所ハカナキ心地ニフツラヒテ云ニ、あつしサニナリタマヘレバ」

あづまうど　吾妻琴　和琴ノ異名、然ルニ、「夏手ドトあづまノ琴今ノアレツツコヲリカケテ
ケリ」源ノ名　著聞集。。。「コレ強キタマヘトテ和琴ヲ押出
ス」トテあづまトノミモ云フ　源作ノ中ニ「人々あづまヲ調ヘテ掻キ合セテ」源花散里。。。
「ヨク鳴ル琴ヲあづまニ調ヘテ掻キ合セテ」敦忠集「スケマサノ母「君生ミオキテ失セタルツ
ラニ乳児ノ名ハ男ノまトナム云ヒケル」むつごと（聖言、六絃琴）モマダ言ヒ果テテ別レ

あづま　東（借字ニ吾妻ナドモ書ス）明端ノ字トスフ（朝モ明時ノ字）鶏ガ鳴
くあづまノ注アリ東方又明義ヨリ景行紀ニ日本武ノ事ノ故事ニ因ンテ山東諸国
ヲ吾嬬国トスフルハ誤解ナンベシ（秋津国ヲ蜻蛉ニ寄スル類）遠江信
濃以東あづまなり

（二）東ノ異名、又東方諸国ノ総称。

神代紀下ノ十二「東国（アツマノクニ）撮取之地」皇行紀、二十五年七月「東方諸国」駿河
舞ヲあづま舞トスヒ萬葉集ニ東歌ト云フハ遠江信濃以東陸奥マデノ歌ヲ古
今集ノ東歌ハ伊勢以東ヨリ近江ノ逢坂関以東ヲ云フ（著聞集逢坂）
ヲモマダ見ネバあづまノヒトニ恋ヒヤリケリ」勢語ニ「京ニアリテあづまニ行キケレ」

12.17

△源若葉、四十
「あづまの清水
キヲ」河海ニ
つまハ琴ノ緒
ヲトドメ又東国
トテ秘曲アリナリ

？

病者

病ノ因

あしき　「憂」（説文「人将甚」語原ハ熟シテ、病黄身ニ熱
アレバ云フ、同熟ニ、あつし、あつしる、あつしき皆同じ後ニ唯病ムコトニ移ル）
（病ミテ熱アリ）
病重ク、アツシ、アツシル、危篤ナリ、形ニ、ヤツレニ、あつしきトモナル
源夕顔、三十四、御首キニ病ク身モあつき心地シテ」同若菜下ノ五十二「イカナル
御心地ゾトテ探リタマヘバイトあつくオハスレバ」同手習十六「ウチハヘ身モみだレ
ハ病ニ、御息所ハカナキ心地ニフツラヒテ五、あつしサニナリタマヘレバ」

あづまゴト　吾妻琴　和琴ノ異名、然ルニ、「夏手ドトあづまノ琴ノ今ノアシツヨコリカケテ
ケリ」源ノ花宴ノ条ニ「コレ弾キタマヘトテ和琴ヲ押出
シタレバ」匠房詠ミケル「昔ノ関東ノアナダモマダ見ネバあづまノヒトニ知ラレザリケリ」
著聞集。。。「コレ弾キタマヘトテ和琴ヲ押出
思ヒテあづまトイヒモ云フ　源作ノ中ノ「人人あづまヒイトヒロ掻キ鳴キ」源花散里。。。
「ヨク鳴ル琴ヲあづまニ調ヘテ掻キ合ハセ」敷地集「スケマサノ母「君生ミオキテ失セタルツ
ヲ、乳児ノ名ハまづまトナム云ヒケル」むつごと（睦言、六絃琴）モマダ言ヒ果テデ別レ

ニシ人ノ形見ハあづまうりケリ」

あづまことば 東詞 東國ノ人ノ言語 京師ノ人ノ中ニテあづま詞 あづま聲、坂東ノ人ノト云フ

拾遺集ニ物名ノ部「あづまうたみ言ニケル」源東屋 五ノ巻「アヤトヤあづまことば者トそバカリノミ出入リ」

東國人ノ轉ジテ唯聲ノ訛ニ成シ事ヨリ出タル歟

物言ヒ云ヒ「あづま人ノ彩ヨリ北ニ聞ユナル」みちのくより東ニヤアルラム」

太平記ニ「坂東ノ人人イツカ言ヒモ習ハヌ坂東彩ヨリ出タヒ」（関東武士ノ詞ヲリ）

万二十ノ三十ノ四十「草枕旅ノ丸寝ノ紐絶ニシ我カ手ト都奈名（付ハヨ）此ノ針持」

（東國防人妻ノ詠）屋代歌駿河之太夫「志太ノ郡ニ朝漕クト舟佐之乎

敷名（寄ヨ）我サヘ乎リテ志太ノ郡見ムヤ」盧重（弘安）十「坂東ノ人ノ

詞ハ、ろノ字ヲツルユト何セラカセラトヨフ」

あづまうた 東歌 東國ノ國風ノ歌 萬葉集ノ十四巻ニ東歌トシテ

遠江信濃以東陸奥マデノ國々ノ人ノ歌載セ同二十巻ニモ東國ノ防人ノ歌ヲ集メ

タリ古今集ノ部ニモ東歌トシテ伊勢以東ノ歌アリ昔ノ詞ト思ハルモノ多シ

あづまことば 東詞 あづまことば侍ヲ見ヨ

あづまことば 東聲 あづまことば侍ヲ見ヨ

あづまぶり 東舞 あづまあそびノ侍ヲ見ヨ

△合ハセテ六種ノ名

あづまあそび　東遊（アヅマアソビ）（東国ノ風俗歌）

天皇ノ御宇（スメラミコトノミウ）ニ、東国ノ人、倭琴ヲ弾ジテ、歌舞ヲ奏シ、其ノ音ヲ聞キテ、其ノ人ヲ召シ、其ノ音ヲ習ハシメ、其ノ人ヲ遣ハシテ

源家ノ生捕ナレバ「ワリヤ」何ヤト コナタモ入タルヲ あづま人トモ ニモ人良ハ也

あづまびと 東人 (一) 東方諸国ノ人、勇敢ナルコトヲ名アリ

徒ノ品の星雪三位有 話「東人ハ常ニ曰ク 敵ニ箭ノ立ツトキ 背ニ箭ノ立テシト云ヒテ君ヲ一ツヽヲ以テ 敵ノ箭ノ逆ノ荷ノ笠ノ荷ノ結ミキ」

(三) 東人ハ荒ビテ自ラ鄙ビタレバ 俗人、下人ニ意トモ言ツ、音便ニあづまうど、約ツ天、あづまうど 時ニ あづまうどと音ヘリ

名義抄「辺鄙 アツマビト」字類抄「辺鄙 アツマビト、アヅマウド」

あづまうど 辺鄙 (あづまびと) 萬葉 (又選、西京賦「鄙良雑居蛮貊」) あづまうど 辺鄙 (あづまうど) 藏人 (らうど) 辺鄙 (あづまうど) 又

あづまと 東人 辺鄙ノ人、

和名抄二ノ四、後撰類「辺鄙 阿豆萬豆」

「中部東海ノ人」

神中抄「夏身ニ御ノ手振ヲ」鄙ヘサツムあづまづもガナ」

あづまと 東人 あづまうど 鄙 あづまびと ヲ見ヨ

あづまうど 東人 あづまびとノ音便

又 新字鏡 卒三ニ「荒、乎古太、東人云、加乃ヤ介」和名抄十九ノ四「蛮 俗間ニ意ヒ人ノ

梳道奥、東人云、阿波加良」ナドアル東人モ異人 俗間ニ意ヒ人ノ

10 根岸 木村製

12.17.

あづまびと「東人」(一)

東方諸国ノ人ノ勇敢ナルヲ以テ名トセリ

往ヒシ日ノ景雲三年有記「東人ハ常ニ曰ク額ニ箭ヲ受ケテモ背ニ箭ヲ立テジト云ヒテ君ヲ一ツヒヲ以テ戦ヒシモノ」万二ノ十「東人ノ荷刎ノ役ノ荷

あづまおとこ

あづまおとこ「東男」(二)

東国ノ人ノ勇敢ナルヲ称シテ云フ

セタヤリ、牧場指差ヒ

「騎女ガ跨ガ馬カ、セタカ、ヒ

「イザヤ潮ヲ汐ムトテ持ツヤ田子ノ浦、東カ、ゲノ潮衣」

あづまコート五重外套(英語 Coat(外套)ニ新名ヲ附セシモノ)

外套ノ一種、特ニ婦人用トシテイルモノ、袖ナシ

薄ク新鮮ナルト用ヒル

腰ニカラゲクルフ水ヲ浴ビタルトキ

高ク

アップル（英語 apple）西洋種ノ林檎、實大キクカツカニシテ味モ美ナリ

あづまぢ　東路　京都ヨリ東國ニ至ル道筋、東海道、海道

アヅマ四ノ十七「安達原ノ男ノ呼坂越エカネテ山ニカヽル浜ムキ者リハナレニ」（駿河ノ岩壁山）

六帖ニ「あづまぢノ」

あづまッた　東人　東ノ國ノ人

東ノ男ヲ、自邪ス後、京畿人ノ侵深世風呂、一ノ下「是ニハカンモ、イザ、ヒッタノコトノネエあづまッこダ」

あつとたふ（異）あとたふヲ星

あつーぼう　開逢　十干ノ甲ノ異称、開逢（君澤ヒラ）甲申ナリ（爾雅）

書經發傳

あつみつ　過密　（過、絶也、密、靜也）

詩閣ノ賦、音聚ヲ禁止ス、ナリモノ多シ

北山抄　八月中旬　齋宮ノ貞觀ヲ以不準音聚ノ過密也」言經変典「過密ハ音」

あつもり蕎麦（摂津ノ一谷ノ名物ニ成ル平敦盛ノ死骸ニ熟[illegible]
津ノ盛蕎麦ト言ヒ[illegible]
業平ノ業ヲ盛蕎麦ヲ入レ熱キ汁ヲ注ケ名ヲ[illegible]カケソバ、カケ、
アッシエエション（英語ノ[illegible]）聯想ノ作ヲ見ル
あづまくだり（東下）京都ヨリ東方ノ諸國ヘ行ク。海道下。
あつらかま（副）重ニ重ネ成スル意ニ云フ後、アツアツト。空穂周遠、上「白キ色紙ノ
イトあつらかま一重ネ」宇治拾遺、一「四望あつらかま数キテ云、良ノ保あつらかま
云云」

歌調ノ異、月初よし夜よしノ例）
東屋ノ中ガ下ミシレバ
今ヤ月日ノ行ヲモシラレズ

あづまや（東屋）（辺鄙屋ノ義ト云フ）辺鄙（其作ノ見ヨ）ノ家ノ意、民家
あづまや「東屋」（辺鄙屋ノ義ト云フ）辺鄙（其作ノ見ヨ）ノ家ノ意、民家
（東人ノ造ル日本ト作ノ異ナリ）
上古殿ハ切端造リ神宮ノ如シ
皆此製ヨリ
端ナリシコト神宮ノ社ヲ見テ知ルベシ
屋根ノ四方葺下ロシ家、今ニ方形造リ四阿。
阿豆萬屋（俗呼ビ東屋「吾妻」ノアヤ雨ソギ我ニ立チ濡レヌ
戸閉カセ（あづまやノあづまや）後撰
卧乱ル美（今夏「五月雨ハ日数（こより）あづまやノ茅ガ軒端」千載
小茅ノ軒ノ忍草（三）真下。
（天治字鏡ニノミアリ、四阿、阿豆万屋）
（下朽ツルマデ）

あてさま　他四　當込（アテ）　當トス　（オヤキト木）　較ミニス。

~~あてはけ~~　當附（アテ）　ヲテコスリ、

~~あてはかる~~　當摺（アテキホト）　アテキホト　ヲテ先ル、
あてかる　同ジ、

~~あてき~~　父君ノ（あてきみ　男）　例サガス

~~あてら~~　アルテレテ　他下　當（一）當ツノ口語
（三）詰畫（セリクロ）ノ下リニ感就サス、「サヒ長ヲ詰ル」ヤまり詰ル

~~あてど~~　充所　物ヲ充テ、送ル　窓形、アテドコロ

~~あて（代）~~　私　ワたし、あたしノ約　（京都中流以下ノ女子用語）

~~あて~~　無達　有而　あてノ男　砂名集、三「世ニあて人ニ知ラズ」同

四「眼あて明ノ中ニアルガ如シ」

~~あてぶり~~　當振　踊ノ振事（仕ぶ）ニ因テ　振當ニ充テ、

~~あと・ふ~~　他下二　訛（アツ）　（訛ノ故　淳ふ　あそらふ）　アトフ、アツラフ、較ミ談フ。
名義抄ノ訛、アトラス、アツラス　コヒラフ」
垂仁紀四年冬ノ「狭穂彦王ニ、訛ニ皇后ニ曰ヒ」神功摂政前紀、註「有「誘導之情」ヲ訛」
「宣年曰ヒ」

~~あとふ~~　他下二　訛（ハ）　（一）誘ス、訛、相呼誘ヒ　又誤、呉王濞伝、訛註「以微言動之」
（二）転ス、誘ス、アトラス、アツラフ、天治字鏡　三ノ十三、誘、註也阿戸
ア　復仲哀紀前紀「喫刺紀ノ而訛之曰ヒ」刺領中侍其訛言」雄略紀三年冒
誘「率武烏於盧城」
（三）覓ヤ迎フ　結婚ヲ申ニ入　仲哀聘　「領中臣連遠祖」「以」「同」「天」「代」「有」「神」「其」「皇」「嫁」「欲」
「為妃」「仲哀紀」「女原紀元年二月」「為大」「馬帯皮皇女」

~~あつらふ~~　他下二　訛（あとらふノ故）　名義抄ノ「訛」　アトフ、アトラフ、較ミテ為サン、
天武紀下、十年正月「詔其」「訛」「謂」「或」「捧」「以」「媚」「於其家」
訛、アツラフ、宣れば「訛、媚、アツラフ」

古今の春の「吹く風にあらそふ」アルモノナラバコノ一本ヲ隔ヤコトニハ　ハヤシ」
万葉集の「あらそふて立ルナト思フ」アレバ我ガ身ヨワクル　飛見ヤリ」
（三）注文ニテ　注ラレム

あて 【直・充・義】 アテ、約ノテ代、アクヒ、直、直段

あと 【跡】 アト 足ノ跡

(二) 足ノ跡 「あとヲ追フ」 「あとヲツクル」 車ノあと (轍)

(三) 島ノあと又筆ノあと ノ字 各 住ヲ見ヨ 再動

(三) 往来、ユキキ、ワライ、 【行】 「行」 漢手習五十七、ユキカヨフ道ニ面ヲ人イトタマサカち

(四) 去リ先ノ方、行方、ユクヘ 跡 「あとヲ慕フ」 異名ニカヨフ方ヨリアリク法師ノあとニマヒマトヘ見ヒルヲ

(五) 物ノ前ニナリシトコロ 址 「昔ノあと」 日明石 「ヨリ深き山ヲもとうあと絶エナマシトオボス」

(六) 物ノ事ノ過キ去リ 跡 「遺ル」 「遺ル」 「遺跡」 「あと」 「末世ノあと」 政治ノあと」

(七) 水ノ流レ、ドン、神仏ノ霊ヲ、人ノ功績、 遺 「遺ル」 「あとヲ垂ル」

(八) ニヤタリ、ダンシ、例、先例、前例 雄異紀 「百信酒賦」 「分常例」

(九) 家ノ方ヲ相住ス、名、姓、姓氏、 家跡 「あとヲ継ク」 「あとヲ乞ク」

○ あとヲフッテマス 出奔ス 脚注

○ あとヲ垂ル 本ヒ垂ル ノ俗ヨリ

○ あとヲ垂ル 行方・隠テ ホム 跡 ○ 家督相続ス 継

(二) 物ノアリシ類ノ名ニ 痕 「痕ノあと」 「疵ノあと」

隆信集、下 「ゼノヤアケキナキ中ナド言ヒチあとくらくシテ失セナムト思フ」

あと（前ノ項ニ）

（二）衝（未来）時ノ先ニ立ツ物ノ前後ニ行ク物ノ前後ニ行ク

（三）ウシロノカタ、（下ノカタ）ヒリヘ、背後 脇

「あとヨツク」神代紀上ノ三「跡 脇」古今。十九 誹諧

「他ヨリあとヨリ進ノ向メまハセムカタ無ミゾ庫中ニ居ル」

（四）前、先、過、未山 方ラ後ト見ルヨリ 前「あとノ月」前月「三年あと」三年前

（五）人ノ死ニタル後ノ霊、亡後「あとヲ弔フ」

あとたち（跡絶）亡ブ 断絶 修験道、あとヲ絶ツ」其家ハあとたち

あとヲとむらふ 弔跡 追善ヲ表供養ノ追福

あとヲひく 引跡 水ノ後ヲ追ク

後生 後世 後輩 後裔 後代 後日 後ノ世ノ

あと 宋書、王弘傳、「柴ニ阿堵物去、具来」空

あと 阿堵 阿堵物ヲ去

あとヒ 阿堵物（コヲモノ）ノ義ヲ、

銭ノ異名、晉書、王衍傳、阿堵、

華日工集（逸文）「阿堵武拾銭」

あど（名）（あどとも）（誘）ノあどより（あど話）

人ノ話 合ハセテ 応答ヲスルコトヲ あどヲ打ツ あどうつ 雷同 迎合

今日ハ殺ノ人ノ興アリテ興アリテ

大義下「あどヲ好ウニたセタマフニ 囃サレタテマツリテ」同 序「此侍ゾ好ノ聞カムト あどう

メリシ」拾玉集、一百首述懐「サゾトミヲハバ、マコトニサゾト、あどうちテ吾ヤ諾ヤ」

人ダニモナシ」国（能ノ狂言ノ脇師ノ利仗 其ノ連ヲまたあどト云フ ト云ヒ狂

あど 利仗（前作ノ後ニ合ヒ）

歌集（寒文）一、「ヤイヨウ（于腮翁）悦ビアリヤヨロコビアレ、あどノ大夫ニ鈴ヲマサラレヨ」

于腮翁ハ能ノ翁舞ノ翁ヨリあどノ大夫ハ三番叟ニ狂言師ノ勤ルナリ

あどうつ（月世）（亜）あどうつ（アトラウツ）あどうつ、あどノ俳ヲ写

あどうかたり（名）あどがたりヲ見ヨ

あどがたり（名）（あどうつノあとより）人ノ心ニ合ハセテ語ルコト、音便・あどうがたり（ド字ヲ言フコト）

空徳、愛平表、四「サテ、物カタラヒモ、お聞エムカ、知レルドチコソ、あどがたりモスナレ、サヤヨウ宜（リ）此頃ハ頼ニキモノナリ」後撰（十八）雜四「人ノ智ノ、今、ハウデ来ムト云ヒテ（女詞ヘ）聞キテ久シウマウデコザリケレバ、あどうがたりノ心ヲ取リテカタナム申シケルト云ヒツカハシケル、女ノ母、「今来ムト言ヒシバカリヨ命ニテ待ツニ消メベシサクサメノトジ」

自下二

あとつかる（アトヒキ）（踵）（踵ハ足ノ義ナルベシ）マタガル。（ヤタグ（他動））

雄略紀、十一年、「跨ヲ百済ニ畢行ル」（アトコヒヨリ）

敏達紀、元年、「紀生磐宿禰跨ヲ百済ニ畢行ル」（アトコヒヨリ）

雄略紀、八年、「跨ヲ蛇ニ猶行」

敏達紀、元年、「紀生磐宿禰跨ヲ百済ニ畢行ル」（アトコヒヨリ）

萬葉「ム」（アトコヒ）

宇鏡、十五「踏跨、麻呂而踊之見、阿不止已年、千止留、又舞也」（又）

名義抄「跨、アトコヒ、マタガル、ヨヒ」宇治抄「跨、アトコヒ」

文選、九、北山移文「跨屈城之雄」（アトコヒ）

二、呉都賦「跨蹈京出井刑」同（アトコヒ）

あとつかる（アトヒキ）後金（アトヒキ）

偽、前人。（地位、勢）継ヲ代ル人。（地位、勢）あとつまニスル」（職。）

「跨横ノ義ナルベシ」

あとかた　後方　ウシロ。うりへ　（「ノあとかたヨリメテマツリニカベノママニテ侍ラモ無礼ニ見苦シク」）

あとかた　跡形　アリシ三ツ元シ、痕跡　（「あとかたモナキ話」）　家を捨てもあとかたナシ

あとかた　後肩　カタ　品藝ノ棒ノ後ノ方ヲ肩グルマ、アトボウ、前肩ニ担ス　前ナルヲ前肩、又先棒トモ

あとぼう　後棒　アトカタ　さきぼうヲ見ル

あとかたづけ　跡片付　物事ノ済シタ後ヲカタヅケルト、アトシマツ、

あとさきもつ　跡先　あとかたづけヲ同じ

あとがね　後金　アトカネ、

あとがね　後金　構フベキ金銭ノ内金ヲ返シテ後ノ残ル元入、アトキン、残金

あとゝり　後口　後ノ部分、

あとおし　跡追（追加、後送、オトシ）　京産跡追（葛西ト云フ去名アリ　延宴七年三月「蘇世産跡追」同年月「蘇世産跡追」

森むつや製

あとゝ（画）　あとヲ傳ヲ見ヨ

あとゝ（画）　同　あと（繼ヲカニ

あとおし　跡追ヒ　あとおしデ破ヲカル。　犬猫ナド、裏屋ニテ行所

ニテ人ヲ　如ク　ヲ　繼カル　其裏　他人ノ跡ヲ追ヒ　或ハママヨリ　顧ミズ立去ル

あとおし　後押し　跡ノ方ニ附ク

傳伝　「三国坂中中井、中中北郡」

あとゝ　後々月　先月ノ前ノ月、前月、先月、前ノ月

あとゝ（画）　あとゝ（画）

あつとゝ（画）　あとゝ（画）

あとゝ　後先見　現出ノ到来ヲ先ニ考ヲ見ル　未熟ノ行後

あと（副）「河」あと（轉）イカニ、

万十五「安樟思ヘカ（思ヘバカ）心憂ミテ夢ヲ見エツル」

浪ノキヨ津樟せ夜

万十四ノ十一「常陸ル浪逆ノ海ヲ玉藻ヲ引ケバ絶エズ阿樟カ絶エセム」

あと（副）「後期」熟慮ヲ為ル所ニ、前期ニ對メ

あと（副）「後年」のあのち同じ、「あとあとノ事ヲ思フ」

あと（副）「後々月」先月ノ前ノ月、先々月、前々月

あと（副）「後」あとさき（裏）

あつとさき（裏）あとさきヲ見ヨ

あとさきみず 後先不見 理非利害ヲ考ヘズ事ヲスルト 不顧前後

万西ノ二十五「汝ハ安樟思ヘカ」

あとのつき　副且・其月ノ前ノ月、アトゲツ、先月、去月

あどけなし（形二）（初）（おさなし、ときなし、とけなし、幼）

（コイトケナシ、アドケナシ、ヨウナシ）（三十四）ナシ、無邪気ナリ

あどけなし（形二）（稚呆）（世気）無し、幼ナラム、わけなしキアリ

あどけなし（形二）（稚呆）（世気）無し、幼ナラム、わけなしキアリ

あどけなし　無邪気ナリ、無邪気ナリ、更ノ取リツクロフ意ナキナドニモ

あとさき　後追

森むつや製

あとさし　後輿　さきボレヲ見ヨ

あとぶつ　意阿堵物（阿堵：此ノ意、晋朱ノ世ノ俗語、劉須溪ノ世説ノ註、阿堵物、猶言這箇物ト）銭ノ異名、晋ノ王衍カ銭ヲ阿堵物ト云ヒシ故ニ異名トスル

世説規箴上篇、王夫人（衍）未嘗言銭婦欲試之令婢以銭遍床不得行夷甫晨起謂婢曰舉却阿堵物（第文）世説文学中篇、殷中軍（浩）見佛經五理亦悉在阿堵上、「空華日乗集（延文）」阿堵二十緡

雄異化　反倒ヲ弾ジ選挙勝

神代上　勝ト

草次中枕方市尾方

あとまくら　後枕（一）脚ト枕ト。
雄略紀「抱屍云云」反側呼號往還頭脚」神代紀上ノ十一「剖
腹屍ノ剖腹脚ノ而哭泣」
（三）アトサキ、前後。狭衣二ノ上「あとまくらも知ラズ掻キ伏シイタニセムイ
カニセムと歎ク」平家八ノ第四條「枕ハ十四五丈モアラムトオボユル大
蛇」　あとまくら

あとすくね　自下二　蹈跡　本地垂跡ノ條ノ事
狭古文、計紙、賀茂社「蹈垂ト計ヲ奚ノナリセバ何ヲ軽ミカカヲスギマシ」
増鏡おちくぼ物語、長歌「志賀ノ浦蹈垂れマシ、日モヤ沈ノメグミヲ軽メビキ」
あとのまつり　後祭（祭日後ノ花車ノ義元上）
為平東ノ時機ニ後レタル上。六月ノ葛山陣、謹文ノダレオレノ意。
アトヘン。

あとーしらなみ　蹈白波（一）船ノ過ギ去リタル後ニ殘リテ
三ツ白波。（三）ホトヲ知らぬ言葉ヲ行先ノ知ラレズナリシコト「蹈白波トゾナリニケル」
あとーつくる　自下二　蹈跡　足蹈ヲツクル。ある跡。蹈跡也阿止之久、布元」
あとどころ　蹈所（一）足ノ踏ミシアト、アレアト、足跡
ラアシヤ」佛名歌「三十アマリ　万七ニ三五「モモシキノ大宮人ノ蹈ミシ蹈所、神ノ良、来寄ラサリセバ失セザ
近江大津宮ノ時　ツノ傷ヤツカサト、ダレ人ノ蹈ミシ阿止已呂」
（三）物ノアリシ跡、遺蹟。天治字鏡ニテハ蹟、蹈、女止止已呂」
あとーみしびと　遺跡人　あとゐしもの
あとーみん　後伺　事既ニ清ミタル後、時機ノ後レタル
院本天個島、中ノ何ヲ言ハテモ跡ヲ　デハカヘニス」
あとーわ　後輪　鞍ノ條ノ事
あとひきじやうだい　後引上戸　酒癖ノ一、酒飲ノ後引ノ甚シキモノ、限リナク飲ムト。蛇之助、

あとーわたり 後弦請 引佳キテ ネダルユト、アトヒキ、

あゝ 穴丸賣（明ヤ 遺ナルベシ 継体 前紀）「三国」 坂井、中此五郎」

（二）物ノ面ニウツロニ穿テル處、異ケタルニモ 凹ニタルニモ ニフ

（三）アヤマチ、キズ、缺點「失」 あゝヨウガス」

（三）損亡、損也、缺損 あゝヨウメル」大キナあゝヤク」

あゝ 感 嗔（あもあたる感動詞）サニアタリテ ヤニ 是ノ時、驚ク感動詞、アヽ、アハヤ、

古語拾遺「阿那、於茂志、事之甚切、皆稱阿那」字鏡 八十五「可咲、見

醜見、阿奈、乎加之」神武紀 大醜、此云鞅奈、瀰保能」万六、四十四「嘲

阿怪」同十八、五十七「嘲ク、無シ、宝和抄「可憎、アナニクシ」

あゝ・う（ウ）嘘 嘘 憂シ、嘆 古今 雜下「ツキトハムカセナクニ、東ニアレバ、マヅ歎カレ

又、あゝう、世ノナ」

あゝ・かちよ（剛）強（嘘勝 意ナト云）「強ビテ、オ、ヒテ無理ニ、

景行紀 四十年七月「汝不欲矣 豈強遣耶」 ○「十七月」「後雪務強行」

仁徳紀 十二年十月「秋賀媛不和、乃強近帷内」

七年紀 「敏大王往群卿「張」申言」

七年紀 十五「強兵徴」

あゝ・かま（ま）嘘 嘘 アナ 嘆 嘆シノ異、人ノ聲ヲ制止スル語

源、御法、十五「女房ノアルガキリ 騒キ惑フ あゝかま、暫ト 鎮顔ニ」 落立法、一、

「ナ、ナ、ノ方ニカクナム聞エバ、あゝかま、落立法ノ君ニ聞カスナ」△

「あゝかま 鎮リタマヘ」ヲ 聖ニ「あゝかまたまへ」トモ 源浮舟十八「あゝか

またまへ 夜聲ニ カカメクニモ 嘆ニキ」

△牧古今十五、恋五 「あゝかま、サキ近ツ方ニ、サキ 夜ヤ、キリ、ス 夢ニモ人ノ見ヌ キコウ人」

あまらめ 穴埋 物ヲ以テ缺處ヲ補タルコト、缺席ニ代人ヲ出シ損失ニ(全ク)
ヲ出シテ償フナド云フ 補缺

あるとも 後裔 (前條ノ語ニ同ジ 後ニ三ノ跡目(意))

ウミノユ、ハツユ、スエ、子孫

播磨屋土紀、美濃屋、志深里、「市野」丑之天皇御足末 奴津(古)良麻
異行紀 四年月 別王之苗裔」 「跡宮」即位前 「拝磐」第清寡 「僕是也」
空穂、國譲中ノ四「世ハ古大村親子ノ御代ニナリナムトスメリ云ヒ中ニ、オハシマ
ス故佛ノ皆あるとも云リ 例ハサルスチミモアラズ」

あるも 西北辰ノ地、其條ヲ見ヨ

あーるい 案内 あんない、ノ異、其條ヲ見ヨ

あるいは 天名地鎖 (北)天條ヲ見ヨ

あるいは 穴二 (穴打) 知はんち、ちょうはんちもぱくうちちょうちょうち
児童ノ戯、銭打ニ種、地上ニハナキ穴ヲ掘リ、三四尺距リテ銭又ハ面ヲ投ゲ、先ヲ跳ビ
穴ノ外ニ出シ、穴ノ者別ノ銭ヲ投ゲ、ソレニ打チテ中ルヲ勝トス、又きどうちあり

暨女心化粧(延享) 「田カラ」ノ石取、穴一ナドノ仮合ハセ悪戯」(婦人笑覧四)

あるいは 四 穴賢 (字當ヲ)(一) 噪畏 (ハ暑) 恐レ多シ、アラ勿体ナシ、恐惶

源、行幸三ナハ、セウセウノ人ハ、エ立テルマジキ殿ノ内ナナ、あるかしら、あるかしら 後ニ
ザマニ居ザリ退キテ」 此條、文章書ノ末ニ慣用セラレテ敬意ヲ表スル語トス
恐惶謹言ト同意ナリ。 (記シテ云ヒ、かしこ 目農 ナ用ル) 源、寄生、四十八、文 ナゴリト宣ハセ

ルヲ云ハメシノ思ヒタヤ（ヲ）ルレ、ヨロヅハ今候（サブラ）ヒテナム、あるかしさ、」

園大暦、文和四年二月ノ条「吉田神主兼豊進状於汝中云々、末ニあるかし

く」日出度かしく」

一休咄（寛文）ニ「一休、正月ニ髑髏（サウロ）ヲ抱キアリク、人、其故ヲ問ヘバ、「僧侶ナキ

此サカヅキあるかしさ、メデ度かしさ、是ヨリハナシ」

（三）慎ミ思フベシ、尊ビ祝ブベシ、

竹取物語「ウヅノ姫ノ好（スノ）ミカリタマフニヨリアリケレト、宣ヒテあるかしさ、トテ箱ニ入

レタマヒテ」

森むらや製